

高等教育開発をリードする人材が
集い、学び、成長する場。

全国の高等教育機関の教育の質向上のための
「教職員能力開発拠点」活動報告書

令和元年度

[令和2年3月]

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

はじめに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）として認定され、平成22年4月から平成27年3月までの5年間にわたって様々なFD/SDの取組を行いました。また、平成26年7月には、引き続き「教職員能力開発拠点」として5年間の再認定を受け、第1期から取り組んできたFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（F D e r / S D C / I R e r）の養成に注力して参りました。

さらに、令和元年8月には文部科学大臣から「本拠点は、網羅的なFD・SDプログラムの開発やFD推進の専門家・指導者養成等の取組を広域的な広がりを持って行う施設として十分な実績を有し、高く評価できる」として、令和2年4月から令和7年3月までの5年間にわたって認定が継続されました。第3期は、個々の教職員に対する支援に留まらず、組織開発支援を重点的な取組とし、「専門家・指導者養成と支援、FD/SDモデルの構築と普及、FD/SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働」を3つの柱として、全国の高等教育機関の発展に尽力していきたいと考えています。

今年度は、本拠点の重点事業であるFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成として、教育関係共同利用拠点である芝浦工業大学（拠点名：理工学教育共同利用拠点）との合同で「ファカルティ・ディベロッパー養成講座&SDコーディネーター養成講座」を東京で、大学評価コンソーシアムから講師を招聘して「I R e r 養成講座」を愛媛で開催するなど、他の拠点やコンソーシアムとの連携を活かして講座を実施し、参加者からも好評を得ることができました。

また、SDに関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者（SDコーディネーター/SDC）の養成も積極的に推進しており、今年度も学外認定者を含む4名のSDCを輩出することができました。

ここに、教職員能力開発拠点の今年度の活動をまとめた年次報告書をお届けします。われわれとしましては、本拠点の活動内容や成果を広く皆さまに報告し、自らの活動を振り返る中で時宜にかなった新たな活動に結びつけていきたいと考えています。講座開催や研修講師派遣等の活動は、本拠点スタッフにとっても、新たな気付きが得られる貴重な機会であり、本拠点事業を通じて、教育の質向上へと繋がる人材育成の輪が多くの機関、そして多くの方々に広がっていくことを心より願っています。

最後に、これまでの2期10年間、皆様方には本拠点事業を積極的に御活用いただいたことに厚く感謝を申し上げますとともに、今後5年間においても本拠点事業への御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人愛媛大学長

大 橋 裕 一

令和元年度「教職員能力開発拠点」活動報告書

目次

1	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について	
(1)	組織概要	1
(2)	スタッフ紹介	3
2	教職員能力開発拠点について	
(1)	教職員能力開発拠点の認定について	4
(2)	教職員能力開発拠点の実施体制について	5
(3)	教職員能力開発拠点の事業計画について	7
3	令和元年度の事業報告	
(1)	令和元年度事業の総括	9
(2)	令和元年度活動実績	
①	FD／SD／IR推進の専門家・実践的指導者の養成・支援	11
②	研修プログラムの開発・提供	21
③	講師派遣／オープン・オフィス	37
④	情報発信	49
⑤	その他教職員能力開発に関する事業	50
参考資料		
①	第2期教職員能力開発拠点目標体系図	52
②	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規	53
③	愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項	55
④	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規	58
⑤	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規	59
⑥	共同利用運営委員会委員名簿及び共同利用推進会議委員名簿	61

1. 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について

(1) 組織概要

ミッション

教育・学生支援機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究を行うと共に、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進すること。

教育企画室の業務（内規第4条及び第10条） ※P. 53～54参照

1. 全学的な教育課題に係る調査・研究等に関すること。
2. 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
3. 授業評価及びシラバスに関すること。
4. 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
5. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
6. 教職員能力開発拠点事業に関すること。
7. その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

※上記の成果を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

教育企画室各部門について

教育・学習支援部門

主に教職員の能力開発を通して教育活動及び学習活動の支援を行っている。教員の能力開発としては、授業の改善、カリキュラムの改善、組織の整備・改革という3つのレベルにおいて、ワークショップ、セミナー、授業コンサルテーション、教育コーディネーター研修会などを実施している。職員の能力開発としては、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で専門分野別及び階層別のSDのプログラムやサービスを提供している。

教育調査・分析部門

主に教育・学習の実態・成果に関する調査の企画・実施・分析を行っている。新入生や卒業予定者等へのアンケートの調査結果を分析することで全学的な教育改善及び情報公開を行っており、調査結果の報告は「IRレポート」にまとめ、学内関係者に届けている。また、調査結果から想定される課題、他大学も含めたIRに関わる取組などを「教育企画室ニューズレター」に掲載して情報発信をしている。

学生能力開発部門

主に学生の能力開発を知性と人間性の両側面から支援する教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。その代表的な取組が、学生のリーダーシップを高める「愛媛大学リーダーズ・スクール」である。また、スタディ・スキル講座等のプログラム開発、学生による調査・研究プロジェクト（プロジェクトE）の運営、大学院生の能力開発を目的としたTA研修、附属高校のキャリア教育支援等を実施している。

沿革

- 1993年：旧教養部を改組して，大学教育研究実践センター（学内施設）が設置される。
- 2001年：大学教育総合センター（学内施設）となる。
- 2002年：大学教育総合センター（省令施設）となる。
センター内にできた教育システム開発部が，FDを担当する。
- 2004年：教育・学生支援機構の設置に伴い，教育開発センター（共通教育部・教育開発部）に名称を変更する。
- 2006年：教育開発センター（共通教育部・教育開発部）が，それぞれ共通教育センターと教育企画室に改組される。
「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に，本学教育・学生支援機構から申請していた「FD/SD/TAD 三位一体型能力開発」（代表：教育・学生支援機構 教育企画室長 高瀬恵次教授）が採択される。
- 2008年：「戦略的大学連携支援事業」に，本学が代表校となり申請した「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』による大学の教育力向上」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 佐藤浩章准教授）が採択される。
- 2010年：「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日）として，文部科学大臣から教育関係共同利用拠点の認定を受ける。
- 2012年：「大学間連携共同教育推進事業」に，本学が代表校となり申請した「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（UNGL）」（代表者：教育・学生支援機構 教育企画室 秦敬治教授）が採択される。
- 2014年：平成27年度以降も引き続き，教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：平成27年4月1日～令和2年3月31日）として，文部科学大臣からの認定を受ける。
- 2019年：令和2年度以降も引き続き，教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」（代表者：小林 直人 愛媛大学教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，認定の有効期間：令和2年4月1日～令和7年3月31日）として，文部科学大臣からの認定を受ける。

(2) スタッフ紹介

教育企画室には、実践経験と研究業績を兼ね備えた、高等教育開発を専門とするスタッフが配属されている。

<教員 スタッフ>

氏 名	所 属・職 名	専 門
小林 直人 - KOBAYASHI Naoto	学長特別補佐（教育）， 教育・学生支援機構副機構長， 教育企画室長，医学部教授	医学教育カリキュラム， 学生の自己学習への支援，FD 等
中井 俊樹 - NAKAI Toshiki	教育企画室副室長，教授	高等教育論，人材育成論 （SDC資格取得者）
村田 晋也 - MURATA Shinya	教育企画室 講師	組織論（FD），リーダーシップ論， 人的資源管理論
仲道 雅輝 - NAKAMICHI Masaki	教育企画室 講師	インストラクショナルデザイン， 教育工学，FD，e-learning （SDC資格取得者）
竹中 喜一 - TAKENAKA Yoshikazu	教育企画室 講師	高等教育論，教育工学 （SDC資格取得者）
阿部 光伸 - ABE Mitsunobu	学生支援センター 講師	SD，高等教育政策，産業教育論 （SDC資格取得者）
高橋 平徳 - TAKAHASHI Yoshinori	教職総合センター 講師	生涯学習論，人的資源管理論
丸山 智子 - MARUYAMA Tomoko	学生支援センター 講師	教育開発，リーダーシップ， プロジェクト・マネジメント （SDC資格取得者）

<事務 スタッフ>

氏 名	所 属・職 名
吉田 一恵 - YOSHIDA Kazue	教育学生支援部 愛媛大学SD統括コーディネーター， 能力開発室長（SDC資格取得者）
織田 隆司 - ORITA Ryuji	教育学生支援部 教育企画課長 （SDC資格取得者）
吉松 明子 - YOSHIMATSU Akiko	教育学生支援部教育企画課 副課長

※教育学生支援部教育企画課において事務局業務を実施

2. 教職員能力開発拠点について

(1) 教職員能力開発拠点の認定について

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として創設された制度である。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、これまで行ってきた教職員能力開発のための研修講師の派遣や独自に開発したFD研修プログラムの提供及び「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点に認定された。本拠点のこれまでの実績と、他大学にも開かれ、かつ他大学からの参加者の成長・習熟を担保できる拠点として発展が期待できる点が高く評価されたことにより、平成26年7月に5年間の認定が継続され、令和元年8月にも同じく5年間の認定が継続された。他大学や諸学協会等との連携により、これまで提供してきたプログラムの充実やFD/S D/I Rの専門家・実践的指導者の育成を図り、全国の高等教育機関の組織的な向上を目指していく。

◎拠点名：教職員能力開発拠点

◎認定施設の種類の種類：大学の教職員の組織的な研修等の実施機関

◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）

平成27年4月1日～令和2年3月31日（5年間）（再認定）

令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年間）（再々認定）

◎代表者名：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構副機構長 教育企画室長）

【参考】本拠点以外の「大学の教職員の組織的な研修等の実施機関」に係る拠点（令和元年度）

施設名	拠点名
北海道大学 高等教育研修センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
東北大学 高度教養教育・学生支援機構	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点
筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター	多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点
筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター	障害者高等教育拠点
千葉大学 大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学 アカデミック・リンク・センター	教育・学修支援専門職を養成する実践的SDプログラムの開発・運営拠点
岐阜大学 医学教育開発研究センター	医学教育共同利用拠点
名古屋大学 高等教育研究センター	質保証を担う中核教職員能力開発拠点
山口大学 知的財産センター	教職員の組織的な研修等の共同利用拠点（知的財産教育）
九州大学 基幹教育院	次世代型大学教育開発拠点
熊本大学 教授システム学研究センター	教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点
芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター	理工学教育共同利用拠点
帝京大学 高等教育開発センター	FD推進共同利用拠点～グローバルなFD研修プログラムとポートフォリオを活用した成果評価手法の開発～

(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について

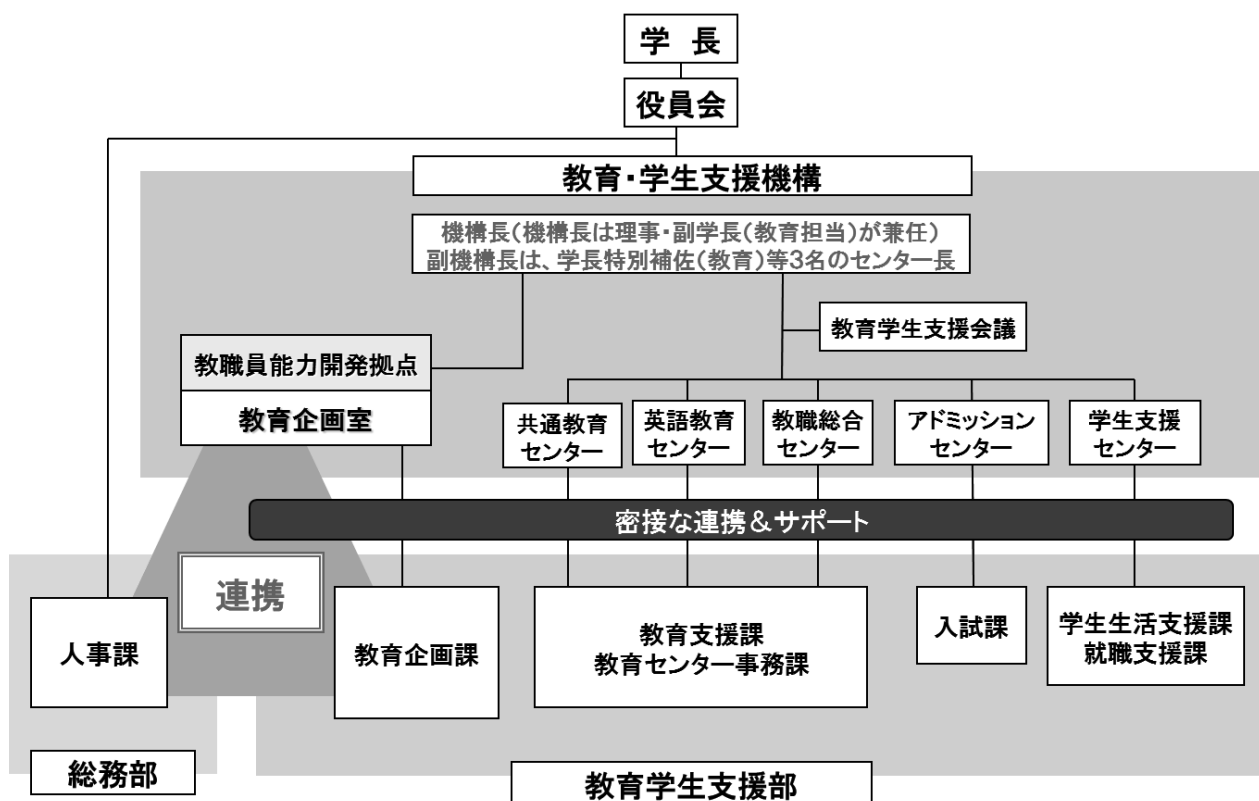
教育企画室が所属する教育・学生支援機構は、愛媛大学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援等の強化を図り、これらに伴う諸課題に対処し、迅速で効率的な意思決定を行うことを目的に設置された組織で、以下の業務を行っている。

(教育・学生支援機構の業務)

1. 学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関すること。
2. 共通教育の企画及び実施に関すること。
3. 学生の受入れ、修学支援、課外活動支援、就職支援等の企画及び実施に関すること。
4. その他、目的を達成するために必要な事項。

その中で、教育企画室は、教育・学生支援機構長（理事・副学長（教育担当）が兼任）の直属機関として、機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、愛媛大学の教育改革を推進することを目的として設置されている。また、教職員能力開発拠点の再認定を受け、これまで提供してきたプログラムの充実や重点事業の推進を図り、全国の高等教育機関等の利用に供している。

教職員能力開発拠点は、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で教職員の能力開発や教育改革の取組を行っている。

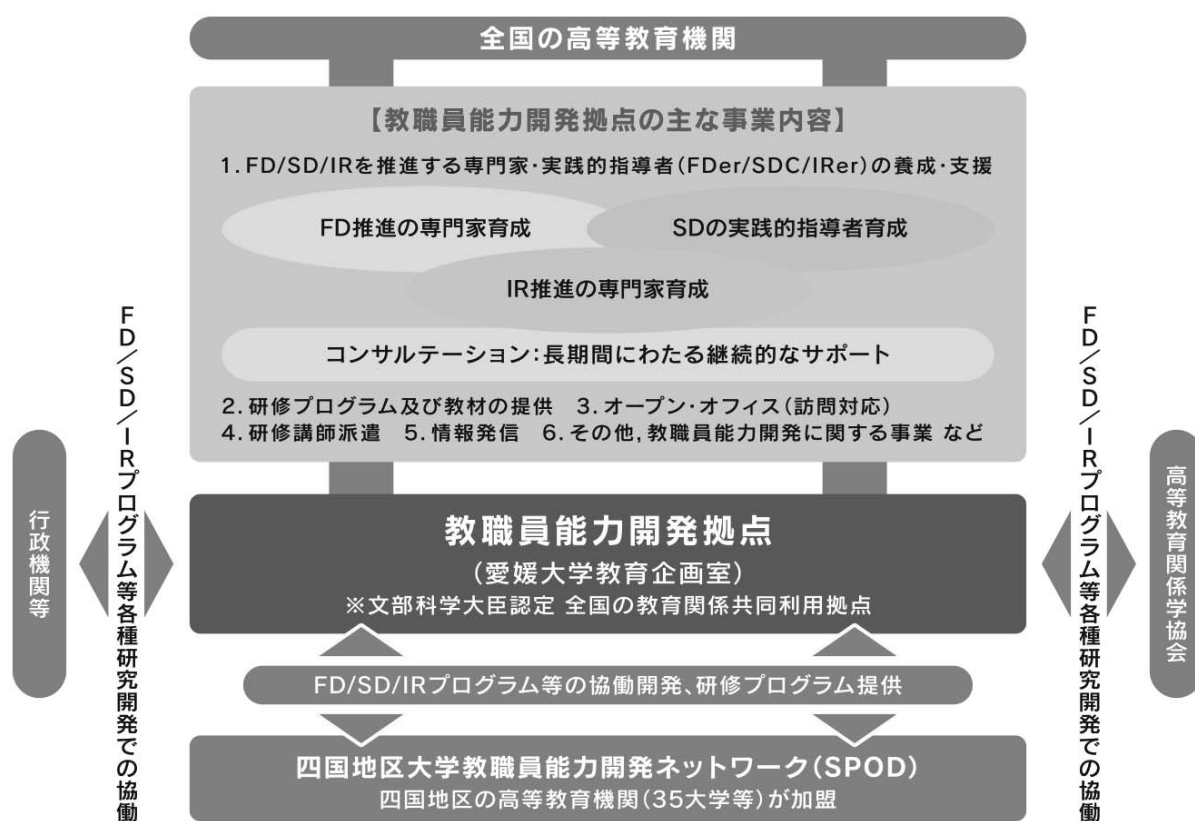


教育企画室には、共同利用運営委員会及び共同利用推進会議を置いている。

共同利用運営委員会は、教職員能力開発拠点の運営に関する重要な事項を審議しており、教育企画室員等の学内関係者のほか、学外の学識経験者4名もメンバーになっている（P.58, P.61参照）。

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に同委員会において、再認定後の「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」を策定した（次頁参照）。また、本拠点事業の評価・改善を円滑に行うために、事業目的や評価指標を示した「第2期教職員能力開発拠点目標体系図」についても併せて作成した（P.52参照）。

共同利用推進会議は、共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議しており、教職員能力開発拠点運営スタッフである教育企画課長や人事課長がメンバーに入っている。（P.59, P.61参照）



教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、日本高等教育開発協会（JAE D）や大学評価コンソーシアムなどの高等教育関係学協会、他の教育関係共同利用拠点等と各種プログラムで連携し、事業を行っている。

(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について

平成27年度以降の認定継続を受け、平成27年6月に「第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」が共同利用運営委員会において策定された。この基本方針に基づき、毎年、事業計画が立てられている。

第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針

平成27年6月30日
共同利用運営委員会決定

1. 事業目的

本事業は、学生の学びの促進を担う教職員の能力開発を行うことにより、全国の高等教育機関における教育の質向上に寄与することを目的とする。これまでに開発したFD/SDプログラムを充実させ、全国の高等教育機関で活用できる研修および各種サービスを提供する。とりわけ、高い波及効果が期待できるFD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成を重点的な取り組みとし、各組織における自律的な教育改善を支援することを目指す。

2. 事業内容

(1) 教職員能力開発拠点は、教職員能力開発に関する以下の事業を行う。

- ① FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（F D e r , S D コーディネーター, I R e r）の養成・支援
- ② 研修プログラム及び教材の提供
- ③ オープン・オフィス（訪問対応）
- ④ 研修講師派遣
- ⑤ 情報発信
- ⑥ その他、教職員能力開発に関する事業

※上記①～⑥までの事業を行うために必要な施設は、授業やその他の行事と併用しながら提供する。

(2) (1)の事業を実施するために、以下の活動を行う。

- ① 広報（ホームページ、案内パンフレット、メールマガジン等）
- ② 他機関との連携等によるプログラム及び教材等の開発
- ③ 研修講師及び訪問対応ができる人材の育成

3. 利用申込み方法

教育企画室ウェブサイト、案内パンフレット等でプログラム内容、定員、連絡先等を示し、参加者等の申込みを受け付ける。

4. 共同利用の決定等

(1) 研修講師派遣

教育企画室ウェブサイトに研修ニーズアンケートを掲載し、その結果及び以下の優先順位に基づき、教育企画室会議で研修講師派遣の可否及び研修講師を決定する。

【優先順位】

- ① 複数の高等教育機関の教職員が参加する研修である。
- ② 単一の高等教育機関においても全学的な取組である。
- ③ その他

(2) 訪問対応

教育企画室ウェブサイトに訪問ニーズアンケートを掲載し、その結果に基づき、教育企画室会議で訪問対応の可否を決定する。

(3) 研修プログラム提供

愛媛大学が提供するプログラムの中から、教育企画室会議で提供する研修プログラムを決定する。ただし、他の機関やコンソーシアムと共同で実施する研修プログラムについては、定員数、申込み方法、共同利用の決定方法やアンケート様式等について当該機関と協議を行う。

(4) 教材等提供

教育企画室ウェブサイトに掲載する教材等は、非営利目的においてのみ利用できるものとし、利用にあたっては、次の「利用条件」を付すものとする。

【利用条件】

- ① 教材等を改変しないこと。なお、技術的に再現困難な場合には、改変することを認めるが内容は改変しないこと。
- ② 必ず教材等の出所（教材作成者名、教材名、研修会（会議）名等）の表示を行うこと。
- ③ 教材等を引用の範囲を超える目的で利用する場合には、作成者の使用許諾を必ずとること。
※上記③の使用許諾が必要な方は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に所属、氏名、連絡先、使用許諾が必要な資料名、利用目的を記載し、申請すること（様式任意）。

5. 実績管理

共同利用運営委員会等に報告するため、1年間の各事業の実績を所定の様式に取りまとめる。また、各事業の評価を得るため、以下のことを行う。

- (1) 講師派遣 派遣先の機関が実施するアンケート結果の提供を依頼する。
- (2) 訪問対応 アンケート様式を作成し、訪問者に依頼する。
- (3) 研修プログラム提供 アンケート様式を作成し、プログラム受講者に依頼する。

上記に基づき、教職員能力開発拠点の事業等を実施するために必要な事項については、教育企画室会議で決定する。

令和元年度教職員能力開発拠点事業計画

◇全体計画

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）は、全国の教育関係共同利用拠点として、FD/SD/I Rの専門性の高い指導者の育成、及び長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援など、以下の事業を行うほか、他の機関やコンソーシアムとの連携を強化する。さらに、これまでの実績を踏まえ、その成果について具体的な事例収集及び効果検証を行い、本事業の充実を図る。

◇事業内容

①-1 FD/SD/I R推進の専門家・実践的指導者の養成・支援

自大学において教育改善を推進できるF D e r（ファカルティ・ディベロッパー）、SDコーディネーター（能力開発担当教職員）、教学I R e r（教学分野に特化した機関調査の担当教職員）を養成するための研修を実施するほか、研修受講者に対する継続的な支援を実施する。令和元年度は「F D e r / S D C / I R e r 養成講座」を開催予定である。

①-2 FD/SD/I R推進の専門家・実践的指導者の認定

独自の認定資格である教職員能力開発拠点SDコーディネーターを認定する他、F D e r ・教学I R e rについても資格認定が可能かどうか検討を行う。

② 研修プログラム及び教材の提供

設置形態や組織の規模等にとらわれない、全国の高等教育機関で活用できる基礎的なFD/SDプログラムを提供する。さらに、ガバナンス機能の強化にも対応できるよう、新たにI R関係プログラムを開発・提供する。また、研修のために開発された教材等、教職員の能力開発に関するオリジナル教材を教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関等の非営利目的において利用してもらう。

③ オープン・オフィス（訪問対応）

愛媛大学の取組事例や各種プログラムの紹介や全国の高等教育機関のFD/SD/I Rに関する相談を年5回程度行う。年間スケジュールについては、あらかじめ教育企画室のウェブサイトに掲載し、高等教育機関の教職員が参加しやすいようにする。

④ 研修講師派遣

多種多様なメニューや経験豊富なスタッフを揃え、引き続き、全国の高等教育機関のニーズにあう研修講師を派遣する。事前に「研修ニーズアンケート」を行うなどして、ニーズの把握に努める。研修講師先については、基本方針に定めた優先順位に基づき、決定する。

⑤ 情報発信

教育企画室ウェブサイトの充実を図り、広く教職員の能力開発に関わる情報を発信する。また、本拠点の取組内容や活動実績・成果等について、学会等で発表していく。

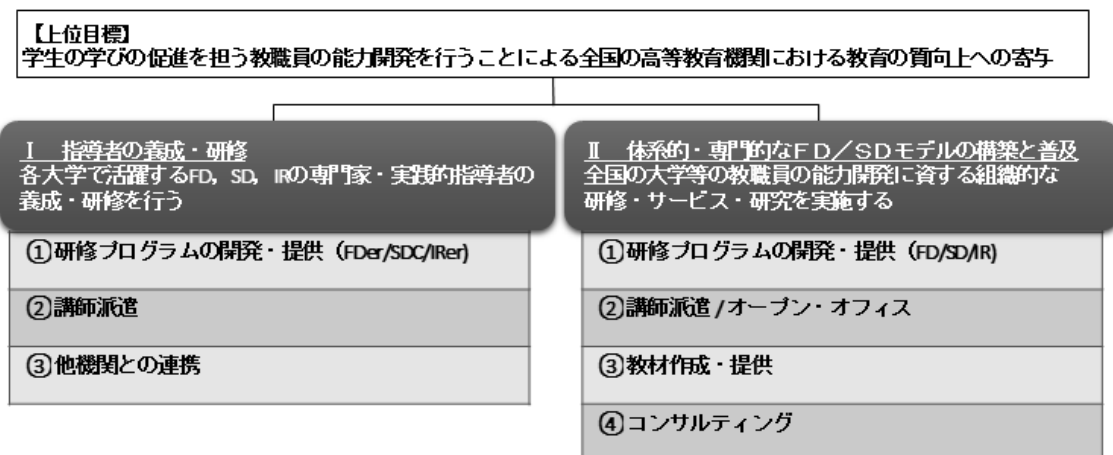
⑥ その他教職員能力開発に関する事業

上記オープン・オフィスや研修講師派遣に、カリキュラムコンサルティングや能力開発コンサルティングといったコンサルテーションを組み合わせた継続的な支援を行う。さらに、他の機関やコンソーシアムとネットワークを形成し、連携した事業についても検討していく。

3. 令和元年度の事業報告

(1) 令和元年度事業の総括

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、第2期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針に基づき、各取組を体系立てて教育的資源の提供を行っている。以下、今年度の取組状況を総括していく。



① FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者 (FDer, SDコーディネーター, IRer) の養成・支援 (上図 I- ①③に対応)

本事業の中でも特に重点を置く取組であり、今年度はFD, SD, IRの各分野について1講座ずつ開催した。12月12日～13日に本学で開催した「IRer養成講座」では、全国から39名の教職員が参加し、IRの意義や方法の知識を学ぶとともに、データ分析から教育改善の提案まで、実際にワークを行って理解を深めた。また、2月7日～9日に東京で開催した「ファカルティ・ディベロッパー養成講座&SDコーディネーター (SDC) 養成講座」では、全国から41名の教職員が参加し、それぞれの役割に必要な知識や具体的手法を学んだ。

なお、ファカルティ・ディベロッパー養成講座&SDコーディネーター (SDC) 養成講座については、芝浦工業大学教育イノベーション推進センター (理工学教育共同利用拠点) との共催であり、同センターは、本拠点と同様、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点 (大学の教職員の組織的な研修等の実施機関) の認定を受けている。共に大学教育の充実に資する組織として、互いの強みを活かして連携を図っている。

② 研修プログラムの開発・提供 (上図 II- ①に対応)

教職員個々の能力開発から組織レベルの教育力向上まで、幅広く高等教育機関で活用できる知識やスキルを習得できるよう、全13プログラムを提供した。今年度は全国から延べ212名の参加があり、いずれの研修においても参加者から高い満足度を得た。教材については、教育企画室が開発したオリジナルの教材等を愛媛大学教育企画室のホームページに掲載しており、非営利目的で活用いただけるようにしている。

③ 講師派遣 / オープン・オフィス (上図 I- ②, II- ②に対応)

授業・教授法やカリキュラム、業務改善等、多様なプログラムを揃え、全国の高等教育機関からの依頼に応じて講師を派遣している。今年度は、42機関からの依頼を受け、47件の講師派遣を行った(令和2年2月末現在)。

また、本学の取組への問合せやFD/SD/IRに関する相談等、全国の高等教育機関等からの訪問調査に対応するため、オープン・オフィス(年5回)や個別訪問に随時対応しており、今年度は国立大学・私立大学を含む5機関から個別訪問があった。訪問目的に合わせて適任と思われる教職員が対応にあたった(令和2年2月末現在)。

④ 情報発信 (上図 II- ③に対応)

昨年度に引き続き、ポスター「データから考える愛大授業改善 Vol. 5」や教育企画室ニュースレター「IR News 第7号」を作成し、IRを中心に愛媛大学の取組や研究成果を学内外に発信している。

また、教育企画室が開発したオリジナルの教材や刊行物等の一部について、愛媛大学教育企画室のホームページに掲載しており、非営利目的で活用いただけるようにしている。

⑤ その他教職員能力開発に関する事業 (上図 II- ④に対応)

国際交流協定校であるモザンビーク・ルリオ大学及びインドネシア・ハサヌディン大学の教職員を、本拠点が提供するFD/SDプログラムにオブザーバーとして受け入れる等、国際連携にも対応した。また、授業やカリキュラム改善等に関わる個別相談を受けコンサルティングを実施した他、学会発表や論文・記事の誌面掲載等により、本拠点の成果や実績のアウトプットを行った。

おわりに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成27年度以降の5年間、教育関係共同利用拠点「教職員能力開発拠点」として再認定を受け、今年度も他大学や関係機関の皆様に御支援をいただき、各事業に取り組んで参りました。これまで本事業に御協力いただいた関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

お陰様で、本事業は当初の予定通り順調に実績を重ね、令和元年8月には、文部科学大臣より令和2年度以降も引き続き「教職員能力開発拠点」として再々認定されました(認定期間5年)。第3期は、特に組織開発を重視した教職員能力開発支援を行い、各大学が自立して教職員能力開発を行うことができる組織となることを目指して参ります。

本拠点は、今後も全国の教育関係共同利用拠点として、他大学や関係機関との連携を図りながら、高等教育の発展に努めて参りたいと考えております。全国の高等教育機関の皆様におかれましては、引き続き、本事業に御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教職員能力開発拠点 代表

小林 直人(愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構教育企画室長)

(2) 令和元年度活動実績

① FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者（FDe r, SDコーディネーター, IRer）の養成・支援

各大学等において自立的にFD, SD及びIRを推進できる専門家・実践的指導者の養成は、特に高い波及効果が期待できるため、高等教育の質向上に大きく資することのできるニーズの高い事業の一つとなっている。本拠点の第2期では、第1期から取り組んでいるFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成にさらに重点を置くこととしており、今年度も他大学等と連携しながら、各分野について1講座ずつ開講した。これらの講座では、講義を通じて知識や実践的なスキルを習得するだけでなく、参加者相互が共に学び合うことも期待され、それぞれが大学の取組事例を紹介したり、悩みを共有したりするなど、積極的に取り組む姿が見られた。

a. FD推進の専門家の養成・支援

FDe r（ファカルティ・ディベロッパー：FD推進の専門家）とは

組織のFD責任者として各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家のことを指し、以下3点を担うFD推進の専門家

- (1) 個々の教員や授業科目における教育技術の改善（マイクロ・レベル）
- (2) 学部や学科・コース等におけるカリキュラムの改善（ミドル・レベル）
- (3) 個々の大学やコンソーシアムでFDを推進するための組織整備（マクロ・レベル）

■ 2月7日（金）～9日（日）開催 ファカルティ・ディベロッパー養成講座

本講座は、FDを企画・実施する立場にあるFDe rに求められる基礎的な知識・技能・態度を育成することを目的として、平成23年度以降、隔年で開催している。今回は、同じ教育関係共同利用拠点の1つである、芝浦工業大学教育イノベーション推進センターとの共催で、東京において開催した。全国から19名（教員15名、職員4名）が参加し、FDの意義を学び、所属大学等におけるFD活動を振り返りながら理解を深めた。

また、講座後半のワークでは、研修で学んだことを生かして実際にFDの企画案を作成した。より実践的な内容となり、自大学のFD資源に気づくことができた、今後のFD活動につながる視点を持つ機会ともなったとして好評を得た。



【事後アンケート結果】

研修は全体的に満足できるものだった：100%（そう思う＋どちらかといえばそう思う）
知識やスキルを身につけることができた：100%（そう思う＋どちらかといえばそう思う）

【参加者からの声】

- ・一方通行の講義ではなく，グループの意見交換の時間をとっていたことや，企画立案で講師が一人ずつメンタリングを行ってくれたことが良かった。
- ・FDの知識の不十分さ，FDの実現をする際のプロセスの重要性など，多角的観点から自分に足りないことを学ぶことができた。
- ・集合研修として，講義だけでなくワークショップ，グループディスカッション，メンタリングなど，実際に自身が様々な学びを経験し，知識・動機とも大いに高まった。

b. SDの実践的指導者の養成・支援

本拠点では，職員の能力開発に関する知識・技術を修得し，特定の認定基準を満たしたSDの実践的指導者のことを「SDコーディネーター（SDC）」と称しており，今年度は学外者1名を含む4名を新たにSDCとして資格認定した（詳細はP.55参照）。今回のSDC資格取得者はいずれも，後述する「SDC養成講座」やそのフォローアップ研修を過去に受講しており，SDの実践的指導者養成の取組が着実に成果を伸ばしている。

SDC（スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター：SDの実践的指導者）とは

職員の能力開発に関する知識・技術を修得し，以下4点を担うことのできるSD実践的指導者

- (1) 大学等における人材育成ビジョンの構築の援助
- (2) 各大学等におけるSDプログラムの企画・立案
- (3) 職員のキャリア開発
- (4) 人材育成を目的とした目標管理制度などの企画・立案

SDCの資格認定基準

1. 高等教育機関のスタッフ・ディベロップメントの推進に対する意欲と展望を有している。
2. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得している。
3. 高等教育機関における職員人材育成ビジョンを構築・支援するための手法を修得している。
4. スタッフ・ポートフォリオ[※]を作成する職員に対するメンター経験を有している。
5. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則，7回以上有している。

※スタッフ・ポートフォリオとは，SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）が開発した職員の業績記録の一形態であり，職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより，自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

■ 2月7日（金）～9日（日）開催 SDコーディネーター（SDC）養成講座

本講座は、職員の能力開発の実践的指導者に求められる能力や役割を理解し、実際にSD推進に活用できる具体的手法の習得を目的として、平成24年度以降、毎年開催している。今年度は、ファカルティ・ディベロッパー養成講座と一部合同で東京にて開催し、関東地方を中心に22名（職員20名、教員2名）の参加があった。参加者は、人材育成ビジョンやキャリア開発についての知識・手法を学んだ後、SDプログラムの企画、運営、評価の基本を学び、実際にSDプログラムを開発するワークに臨んだ。最終日には、開発したSDプログラムについて発表を行い、3日間の成果を共有することができた。

<プログラム構成>

◆組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ

自大学における人材育成ビジョンの構築を目指す。例えば、求める職員像や職員のキャリア開発、キャリア形成のために、組織としてどのようなビジョンが必要であるか等を学ぶ。

◆キャリア開発手法／個人のビジョン作成ワークショップ

参加者が自らのスタッフ・ポートフォリオを作成し、ワークショップを通じて職員としての理念・ビジョンを整理し、自らがメンターとしてメンタリングを体験することにより、職員のキャリア開発手法を学ぶ。

◆SDプログラム企画・運営・評価手法／SDプログラム開発ワークショップ

SDプログラムを企画・運営・評価するための手法を学ぶ。さらに、ワークショップを通じて開発したSDプログラムについて発表を行い、全体で共有を行う。

※受講者は事前課題としてスタッフ・ポートフォリオを作成



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 95.5%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・SDについて基本的な知識を得ることができたとともに、様々な方と知り合うことができた。
- ・理論と実践のどちらも学ぶことができ、大変参考になった。
- ・現状で足りない部分を改めて認識することができた。

c. IR推進の専門家の養成・支援

IR（インスティテューショナル・リサーチ）は、計画立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する活動である。近年、各大学では大学のガバナンス機能の強化が求められており、本拠点ではIRを推進する専門家（IRer）を養成するための講座を開講している。本講座は、平成26年度に福岡で初めて開催し、以降隔年での開催を計画していたが、近年のIRへの関心の高さから、平成28年度以降、毎年開催している。

IRer（インスティテューショナル・リサーチャー：IR推進の専門家）とは

教学に関わる様々なデータ（各種調査や教務データ等）に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門家。

※本拠点におけるIRとは、特に教育・学生支援に関するIR「教学IR」を指します。

■ 12月12日（木）～13日（金）開催 IRer養成講座

本講座は、IRの担当者として、IRの意義や方法、データ分析や管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、所属大学におけるIRの実務を推進または改善するための具体的手法を身につけることを目的として開催している。今年度は愛媛大学で開催した。全国から39名（教員13名、職員26名）が参加し、IRerに必要とされる基本的な知識や質的・量的データの分析方法等の具体的なスキルを習得し、さらに、分析結果をもとにした改善策の提案や発表までの一連のプロセスを踏んで理解を深めた。参加者からは、「IRの捉え方と具体的な分析手法を理解することができた」等、高い評価をいただくとともに、参加者間の交流を通じて刺激を受けることができたとして好評を得た。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う+どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 97.4%（そう思う+どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・データの多様な切り口を、ワークショップで学ぶことができた。
- ・技術的な話だけでなく、IR担当者としての考え方、業務への取り組み方を知ることができた点よかった。



主催／愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）
芝浦工業大学教育イノベーション推進センター（理工学教育共同利用拠点）
後援／日本高等教育開発協会（J A E D） ※ファカルティ・ディベロッパー養成講座のみ

in 東京

養成講座

SDコーディネーター & ファカルティ・ディベロッパー

参加
無料

2020.2.7 fri ~ 9 sun

会場：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

ファカルティ・ディベロッパー養成講座

対象

定員24名

高等教育機関で1年以上FDを担当している教職員

SDコーディネーター（SDC）養成講座

対象

定員30名

SDを担当する教職員、
SDコーディネーターに関心のある教職員

- ※ 全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。
- ※ 3日間の参加が可能な方のみとなります。ただし、これまでにSDC養成講座を受講された方のうち人材育成ビジョンに関する内容を受講されていない方については、1日目のみの受講も可能です。
- ※ 民間企業等に勤務されている方の参加は、お断りしております。
- ※ 同一機関からのお申し込みが多数の場合は、お申し込み状況により調整させていただくことがあります。

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

ファカルティ・ディベロッパー養成講座

実施目的

F Dを企画・実施する立場にあるファカルティ・ディベロッパー（F D er）に求められる基礎的な知識・技能・態度を育成する

到達目標

- ① 所属する機関において、なぜF Dが必要なのかを説得力をもって説明できる
- ② 所属する機関のF D活動を振り返り、特徴と課題を抽出することができる
- ③ F Dのさまざまな場面で求められる課題解決の方法を提案することができる
- ④ F Dに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学びあう雰囲気貢献する
- ⑤ 他機関のファカルティ・ディベロッパーと友好的なネットワークを構築する

スケジュール

1日目

12:30	受付	
13:00	オープニング ※SDC養成講座と合同開催	[小林]
13:20	オリエンテーション	[榊原]
13:30	所属大学のF D活動の振り返り	[仲道]
14:35	F Dを理解する	[小林]
15:45	F Dを設計する	[仲道]
16:25	研修を運営する	[榊原]
17:00	終了	
18:00	情報交流会（参加任意／会費4,000円） ※SDC養成講座と合同開催	



事前課題

- 1 自大学で実施しているF Dを紹介する資料（受講者間で共有可能なもの）をPDFデータ（A4用紙1枚）で提出してください。
*以下の①～③の内容を含めてください。
①F Dの概要 ②F Dの特徴 ③F Dの課題
*資料の右上に大学名及び氏名をご記入ください。
- 2 F Dに関する動画（10分程度）を視聴し、所属機関のF Dの事前学習としてどのように活用できるのかを考えてきてください。
*詳細は申込受付完了後、別途ご連絡します。

提出期限：2020年1月10日（金）

提出先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

ノートパソコンをご持参ください。
研修会2・3日目の演習で使用予定です。

2日目

10:00	授業コンサルティングを運営する	[仲道]
10:40	学生参画型F Dを運営する	[榊原]
11:30	ティーチング・ポートフォリオを取り入れる	[榊原]
12:00	休憩	
13:00	組織開発につながるF Dを実施する	[小林]
14:15	ファカルティ・ディベロッパーとして成長する	[榊原]
15:30	演習：F Dの企画案を作成する	[榊原]
17:00	終了	

3日目

10:00	演習：F Dの企画案を作成する	[全講師]
12:00	休憩	
13:00	F Dの企画案の発表と共有	[榊原]
14:30	クロージング ※SDC養成講座と合同開催	[小林]
15:00	終了	

お申し込み

先着
24名

2019年11月20日（水）正午～12月6日（金）正午

定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。
なお、いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。

◆ 申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

SDコーディネーター養成講座

実施目的

職員的能力開発（SD）の実践的指導者（SDコーディネーター／SDC）になるため、その役割や求められる能力を理解し、実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につけることを目的としています

到達目標

- ① 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
- ② 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる
- ③ 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ（SP）を作成することができる
- ④ 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる
- ⑤ SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる
- ⑥ SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくること

スケジュール

1日目	
12:30	受付
13:00	オープニング ※FDe r養成講座と合同開催 [小林]
13:20	オリエンテーション SD, SDCについて理解する [吉田]
14:00	人材育成ビジョンの必要性について理解する [吉田]
14:30	組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ [吉田]
17:00	終了
18:00	情報交換会（参加任意／会費4,000円） ※FDe r養成講座と合同開催



事前課題

- 1 スタッフ・ポートフォリオ（SP）
申込受付完了後、様式をお送りします。
- 2 自大学で実施している『新任職員に対する研修』の実施要項（受講者間で共有可能なもの）をPDFデータ（A4用紙2枚まで）で提出してください。
* 該当するものがない場合は、職員に対する何らかの研修の実施要項で結構です。
* 資料の1枚目右上に大学名及び氏名をご記入ください。

提出期限：2020年1月10日（金）

提出先：kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物

事前課題で提出いただいたSP（2部）
研修会当日メンタリングを実施する際に使用します。

2日目	
9:30	SP, メンタリングの導入事例及びその有効性について [高木・鈴木]
10:30	メンタリングを実践する [日野]
12:00	休憩
13:00	個人のビジョン作成ワークショップ [関屋]
14:40	SDプログラムを企画・運営する [竹中]
16:00	SDプログラムを評価する [竹中]
17:00	SDプログラム作成ワークショップ [竹中]
17:30	終了

3日目	
9:30	SDプログラム作成ワークショップ [全講師]
12:00	休憩
13:00	SDプログラム発表と共有 [全講師]
14:00	振り返り
14:30	クロージング ※FDe r養成講座と合同開催 [小林]
15:00	終了

お申し込み

先着
30名

2019年11月20日（水）正午～12月6日（金）正午

定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。なお、いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。

◆ お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

講師



小林 直人
愛媛大学
学長特別補佐
教育企画室長・教授
(教職員能力開発拠点代表)



仲道 雅輝
愛媛大学
教育企画室 講師
SDC



榑原 暢久
芝浦工業大学
教育イノベーション推進センター
教授・SDC
(JAED理事)



竹中 喜一
愛媛大学
教育企画室 講師
SDC
(JAED会員)



吉田 一恵
愛媛大学
教育学生支援部
愛媛大学SD統括コー
ディネーター・SDC



高木 佳代子
愛媛大学
総務部就業環境
推進室 副室長



鈴木 洋
芝浦工業大学
教育イノベーション推進
センター事務課 課長



関屋 一博
岩手県立大学
高等教育室長



日野 智仁
奈良先端科学技術
大学院大学
企画・教育部企画総務課
評価・IR係長

教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名称：教職員能力開発拠点）として認定されました（認定期間5年）。また、平成26年7月に5年間の認定が継続され、令和元年8月にも同じく5年間の認定が継続されました。教職員能力開発拠点では、FD/SD/IRの専門性の高い指導者の育成、長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援を始め、研修講師の派遣や独自で開発したFD/SD研修プログラムを提供など、幅広い取組を行っています。

理工学教育共同利用拠点

(芝浦工業大学教育イノベーション推進センター)

芝浦工業大学教育イノベーション推進センターは、理工学教育のモデル構築とその基本的な枠組みおよび教育手法を国内に浸透させる拠点として、文部科学大臣より教育関係共同利用拠点（大学の教員・職員の組織的な研修等の実施機関）の認定を受けました（認定期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日）。私立大学では2校目の認定となります。これにより、本学が目指している理工学教育のモデル構築に向けて、より活発な取り組みとなることが期待されています。

ACCESS 芝浦工業大学 芝浦キャンパス

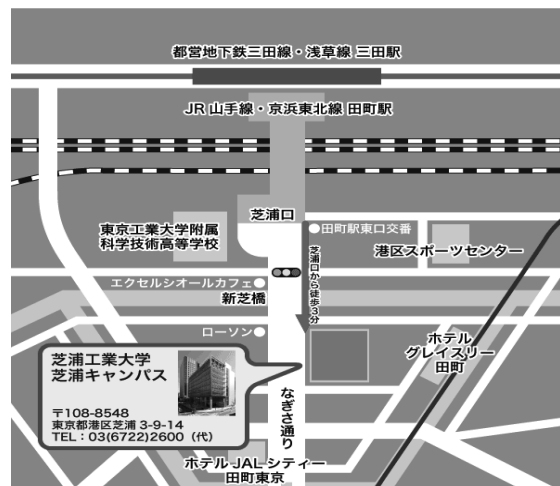
東京都港区芝浦3-9-14
「田町駅」より徒歩3分、「三田駅」より徒歩5分

お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課
TEL：089-927-9154
mail：koyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

当日のお問い合わせ

芝浦工業大学教育イノベーション推進センター事務課
TEL：048-687-5049
mail：edudvp@ow.shibaura-it.ac.jp



IRer養成講座 in 愛媛

日程：2019年12月12日（木）～13日（金）

会場：愛媛大学城北キャンパス 法文学部8階大会議室

参加費：無料



到達目標

1. IRの意義と方法について説明できる
2. データの適切な管理を組織的に行う方法を説明できる
3. 学生にかかわるデータの分析を行うことができる
4. データ分析を基に教育や学生支援の改善提案ができる
5. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることできる

実施目的

IRの担当者として、IRの意義や方法、データ分析や管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、所属大学におけるIRの実務を推進または改善するための具体的手法を身につけることを目的としています。

お申し込み

先着40名

2019年9月9日（月）正午～10月31日（木）正午

定員人数に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。なお、いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

参加対象：IRを担当する教職員（IRの経験1年以上10年未満の者）

※2日間の参加が可能な方のみとなります。全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。※同一機関からのお申し込みが多数の場合は、お申し込み状況により調整させていただくことがあります。※IRの経験が3年以上の方には、当日のファシリテーターをお願いする場合があります。

主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

講師

ゲスト講師 鳥田 敏行（茨城大学 全学教育機構 准教授）

平成15年4月に金沢大学大学院自然科学研究科地球環境科学専攻博士後期課程を単位取得退学し、茨城大学総務部総務課に文部科学事務官（一般係員）として着任。平成17年3月からは評価室（Office of Institutional Research）の専任教員として評価業務とIR業務に従事する。平成28年8月から全学教育機構総合教育企画部門に異動し、質保証（IE）を中心に、IRおよびアセスメント関連業務を担当している。

小林直人（愛媛大学学長特別補佐／教育・学生支援機構教育企画室長 教授）

中井俊樹（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長 教授）

中山晃（愛媛大学 教育・学生支援機構英語教育センター 教授）

竹中喜一（愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 講師）



スケジュール

1日目 12/12

8:30	受付	
9:00	アイスブレイク・オリエンテーション	[竹中]
9:20	IRの意義と方法を理解する	[中井]
11:00	IRerに必要な能力を理解する	[鳥田]
11:40	休憩	
12:40	実務担当者の分析事例	[中山]
14:00	データの適切な管理方法を理解する	[竹中]
14:40	質的データを分析する	[竹中]
16:00	量的データを分析する	[竹中]
17:30	終了	
18:00	情報交換会（参加任意／会費4,000円）	

2日目 12/13

9:00	前日の振り返り	[全講師]
9:30	管理者が求める報告のポイントとは	[小林]
10:20	IRに関する質疑応答	[全講師]
11:00	教育・学生支援の改善提案を考える (GW)	[竹中]
12:00	休憩	
13:00	教育・学生支援の改善提案を考える (GW)	[竹中]
15:40	教育・学生支援の改善提案を考える (発表)	[竹中]
17:00	振り返り・クロージング	
17:30	終了	

アクセス

愛媛大学城北キャンパス
法文学部本館8階大会議室
(愛媛県松山市文京町3番)

松山駅から：路面電車（伊予鉄道市内電車）環状線①（古町方面行き）「赤十字病院前」下車



事前課題

①Excel（Windows版）を用いた統計分析

②所属大学におけるIRの取組と、ご自身のIR業務経験に関するポートフォリオ

※受付完了後、様式をお送りします。
※資料1枚目右上に大学名及び氏名をご記入ください。
※提出いただいた資料は参加者に配付し共有します。

提出期限：令和元年11月29日（金）

提出先：kijoiku@stu.ehime-u.ac.jp

持参物 ノートパソコン※、USBメモリー

※Excel(2013以降のバージョン)がインストールされたもの

教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名称：教職員能力開発拠点）として認定されました（認定期間5年）。また、平成26年7月に5年間の認定が継続され、令和元年8月にも同じく5年間の認定が継続されました。教職員能力開発拠点では、FD/SD/IRの専門性の高い指導者の育成、長期的なコンサルテーションを通じた各組織の自律的な教育改善の支援を始め、研修講師の派遣や独自で開発したFD/SD研修プログラムの提供など、幅広い取組を行っています。

お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課

TEL：089-927-9154

E-mail：kijoiku@stu.ehime-u.ac.jp

② 研修プログラムの開発・提供

第2期の基本方針に基づき、13本の研修プログラムを提供した。今年度のプログラム参加者総数は212名であり、事後アンケート回答者の90%以上が「満足」と回答した。

※各プログラムの内容やアンケート集計結果等の詳細は、P.23～36に記載

(本拠点の研修プログラムの特徴)

1. FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者になりうる人材の育成に力を入れている。
2. FD/SD/IRの各種プログラムを実施している。
3. 新人からベテラン、リーダーまであらゆる立場の教職員にとって日々の業務改善につながる実践的な内容である。
4. 数多くのプログラムは、講義形式だけでなく、講師と受講者の間で行う対話形式や、受講者間のディスカッションによるワークショップ形式等の双方向型で実施されている。

6月29日(土)～30日(日)に愛媛県今治市にある「いまばり湯ノ浦ハイツ」で開催した「第32回授業デザインワークショップ」では、15名の教員が2日間の合宿形式でワークショップを受講した。受講者からは、「グループワークに苦手意識を持っていたが、上手にアイスブレイクができるとグループのメンバーと話しやすくなるのが分かったので実践してみたい」「これまでは感覚的に行ってきた授業の時間配分・構成等について適切な授業計画方法を学ぶことができた」「専門分野の異なる複数の先生方と共同で授業を設計することで、新たな視点や刺激を得ることができた」等の感想が寄せられた。ワークショップの終盤には、ミニ講義及びグループワークで作成した授業計画案に基づいて各受講者が実際に模擬授業を行い、授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術について理解を深めていた。

また、7月6日(土)～7日(日)に愛媛大学で開催した「ティーチング・ポートフォリオ(TP)作成ワークショップ」では、8名の教員がメンタリングを受けながら実際にTPを作成した。受講者からは、「担当メンターのアドバイスがとても適切で、自分の経歴や担当科目に合ったティーチング・ポートフォリオを作成することができた」「教育の理念や目的がはっきりとし、今まで漠然としていた教育に対しての自身の目指すべき目標がはっきりした」「ワークショップで2日間集中して取り組むことで、より真剣に考えることができたように感じている」等の感想が寄せられ、TP及びメンターの意義を実感していただくことができた。

教職員能力開発拠点が提供する研修プログラム(令和元年度)

日程	プログラム名	対象	受講者数	満足度
1 5月9日(木)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－	FD/SD	10	100
2 5月15日(水)	ジグソー学習法入門	FD	8	100
3 5月16日(木)	アクティブラーニング入門セミナー	FD/SD	20	100
4 5月16日(木)	効果的なeラーニングの活用方法(超入門編)	FD	11	100
5 5月17日(金)	学習評価の基本	FD	18	92.9
6 5月17日(金)	ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計	FD/SD	8	100
7 6月29日(土)～30日(日)	第32回授業デザインワークショップ	FD	15	100
8 7月6日(土)～7日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	8	100
9 8月20日(火)	講義のための話し方入門	FD/SD	9	100
10月11日(金)～13日(日)	ファカルティ・ディベロッパー養成講座 in 東京	FD	※台風のため 日程変更	
10月11日(金)～13日(日)	SDコーディネーター(SDC)養成講座 in 東京	SD		
10 12月5日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	FD/SD	25	100
11 12月12日(木)～13日(金)	IRer養成講座 in 愛媛	FD/SD	39	100
12 2月7日(金)～9日(日)	ファカルティ・ディベロッパー養成講座 in 東京	FD	19	100
13 2月7日(金)～9日(日)	SDコーディネーター(SDC)養成講座 in 東京	SD	22	100
3月5日(木)	愛媛大学教育改革シンポジウム	FD/SD	※感染症拡大防止のため中止	
		合計	212	99.4

【FD/SD】

学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 — 課題分析図の活用 —

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和元年5月9日(木) 13:00 - 15:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

10名 [学内6名・学外4名 愛媛県立医療技術大学(1),
徳島大学(1), 人間環境大学(2)]

▶目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

▶内容

学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。

次に教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通じて、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。

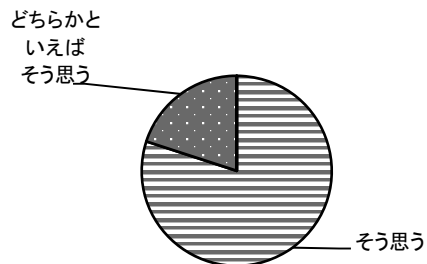


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

10名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- グループ活動によって、他の人たちの意見をもらえて、とても有意義でした。
- 課題分析ワークシートの作成は自分の授業を改善するのにとても役立った。また、他の先生方と意見交換して、自分が知らない工夫を知れたのが良かった。
- 具体的に対応してもらえて、わかりやすかったです。
- 自分の授業構成を見直すきっかけとなった。
- 前後関係を踏まえて講義内容を構築できるので、非常に有意義だった。
- 課題分析図を作成するという手法を学べた。ガイダンスのパワポ作成時に活かせると思います。
- これまでの経験を体系的に整理することができた。

【この研修の改善点】

- 課題分析をした結果、それを授業の順序や設計と結びつけるのが(個人的に)少し難しく感じました。
- グループワークが入るため、時間がもう少し長ければ良いと思いました。



ジグソー学習法入門

【実施概要】

▶講師

村田晋也（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和元年5月15日(水) 13:30 - 15:30

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

8名 [学内5名・学外3名 愛媛県立医療技術大学(1),
人間環境大学(1), 大阪市立大学(1)]

▶目標

1. ジグソー学習法の基本的な仕組みについて説明できる。
2. ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方を体験し、授業での活用を検討できる。

▶内容

社会心理学者K. レヴィンをはじめとした集団力学を専門とする研究者たちによってこれまで種々実証されてきたように、グループワークは、受講者が学習に対する積極的な姿勢を抱けるよう変化を促すのに有効な手法として注目されてきました。とりわけ同手法は近年、学校教育の場で広く導入されつつあることは周知のとおりです。しかし、一言で「グループワーク」とはいつても、その実践方法は玉石混濁であるのが実態です。

そこで本講では、それら数ある手法のうち、高い効果が得られるとして良く知られているやり方の1つを体験して頂ければと考えています。これは、社会心理学者E. アロンソンが1978年著書『The Jigsaw Classroom』（松山安雄訳『ジグソー学級 生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方』）の中で提唱した「ジグソー学習法」なるもので、この学習法を用いた授業の進め方とその効果を皆さまに紹介することを本セミナーの主たる目的としています。

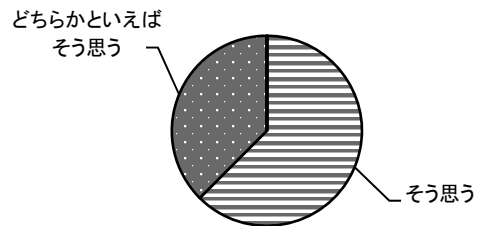


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- ジグソーの具体的な内容が理解できました。
- ジグソー法をジグソー法で学べたので、行動と理解がシンクロしてとてもわかりやすかったです。
- ジグソー学習法の具体的な流れや利点を実体験を通して学べたので、学生がどう感じるかということも体感できた。
- 自分の授業で用いるよう考えることができた。
- 講師の先生や他の受講生の先生のお話を聞いて、取り入れられそうな感じがした。
- 実際にジグソー学習法を体験することによって、利点や活かし方、問題点について考えることができた。



アクティブラーニング入門セミナー

【実施概要】

▶講師

竹中喜一（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和元年5月16日(木) 13:00 - 15:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

20名[学内14名・学外6名 愛媛県立医療技術大学(1),
人間環境大学(2), ハサヌディン大学(1), ルリオ大学(2)]

▶目標

1. アクティブラーニングが必要な理由を述べることができる。
2. アクティブラーニングの技法のメリット・デメリットを具体的に説明できる。
3. 自ら担当する授業で活用できそうなアクティブラーニングの技法を列挙することができる。
4. アクティブラーニングの技法を効果的に実践することができる。

▶内容

1. 意義ある学習とは
2. アクティブラーニングを理解する
3. 学習課題を組み立てる
4. 発問で思考を刺激する
5. 経験を学習に変える
6. 学生を相互に学ばせる

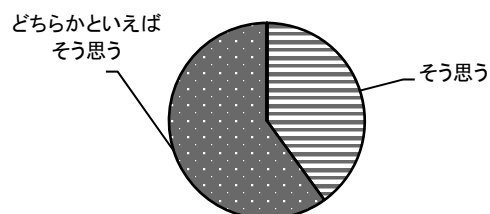


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

16名(80.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- GWで発言することによって自分の考え方を整理することができたと思います。
- 自分が意識している教育の心がけと、多くの一致点を見つけることができ、考え方がより明確になった点。
- アクティブラーニングがどのようなものか、理念だけでなく技術面も含めてよく分かりました。
- アクティブラーニングを用いて進める授業を多く担当しているので、良い振り返りができたと思います。
- 基本的理論から実践までアツという間の2時間でした。
- 具体的なアクティブラーニングを受けながら学習できた点。
- 講義の内容を実際に行われる点。
- アクティブラーニングの現状を学べて良かった。

〔この研修の改善点〕

- 最後の具体的なアクティブラーニングの方法論をもう少し詳しく説明してほしいです。
(多少時間がのびても良いので)
- 本セッションは、最低3時間必要だと思います。ありがとうございました。



効果的なeラーニングの活用方法(超入門編)

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和元年5月16日(木) 15:15 - 17:15

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

11名[学内7名・学外4名 愛媛県立医療技術大学(1),
四国大学(1), 人間環境大学(2)]

▶目標

1. eラーニングとは何か説明できる。
2. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
3. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
4. 自身の授業で使えるようなヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

▶内容

大学等において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが目まぐるしく注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「有効な活用方法を知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「実はeラーニングとは何かかわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。

1. eラーニングとは
2. 広義・狭義のeラーニング
3. 実践事例の紹介(動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能(振り返り)等)
4. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。

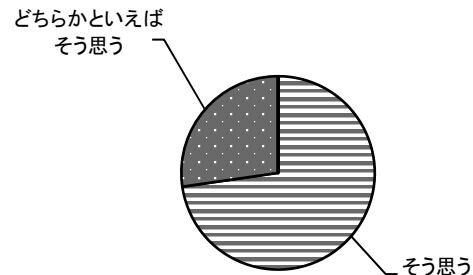


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

11名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 同じテーブルの先生方とeラーニングをテーマとして情報交換ができたこと。
- eラーニングの理解が不十分な大学と完備された大学に勤務した経験が、今日の研修で具体的な授業への活用のアイデアに結びつきました。ありがとうございます。
- 以前よりeラーニングの必要性を感じていたため、今後さらに学んで取り入れるようにしたいと思います。
- eラーニングをどのように使ったら効果的か、様々な例を学べて、今後の授業に活かせると思った。
- 自分が授業でeラーニングを使う際の疑問点について聞くことができ、他の先生方が持つ疑問点も知ることができた。
- 既に自分の授業でMoodleを使っていたので、疑問点と希望を、同じグループの人に質問でき、解決したのでとても有意義でした。

〔この研修の改善点〕

- 今後の入門編でも、操作ではなく理論中心のコマも欲しい。(Moodleを使うとは限らないので)



学習評価の基本

【実施概要】

▶講師

竹中喜一（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和元年5月17日（金） 10:00 - 12:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

18名〔学内14名・学外4名_人間環境大学(1),
ハサヌディン大学(1), ルリオ大学(2)〕

▶目標

1. 学習評価の意義と目的を説明することができる。
2. 到達目標にあわせた評価の方法・基準を選択・設定できる。
3. 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。
4. 公正で厳密な成績評価を行うことができる。

▶内容

オリエンテーション

1. 学習評価の目的
2. 学習評価の主体
3. 学習評価の対象
4. 学習評価の基準
5. 学習評価の方法
6. 優れた評価の条件
7. 作問の具体的方法
8. 評価のさまざまな側面

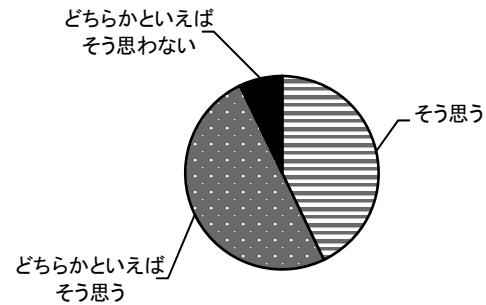


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

14名(77.8%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 「評価」と言っても多くの方法があり、逆向き設計で考えて評価できない目標は作らない点を学べて良かった。
- 評価基準について明確に具体的な例が出ていたので、そこを自身のベースにして成績評価を行っていきたい。
- 教育評価の基本から実践まで良い研修ができました。
- 評価の話、テストの話、フィードバックの話、それぞれについてなんとなくは知っていたが、細かな方法や注意点の情報としては、初めて意識したものがあって勉強になった。
- 様々な評価方法を知れたこと。
- 他のグループの意見が聞けた点。
- 具体的なノウハウを得られた点。

〔この研修の改善点〕

- Moodleなど愛大で使えるシステムの説明などがあればより良かったと思います。



ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和元年5月17日（金）13:00 - 15:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

8名〔学内4名・学外4名_徳島大学(1), 四国大学(1),
人間環境大学(2)〕

▶目標

1. 「インストラクショナル・デザイン（ID／教育設計）」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法（ARCS動機づけモデル）を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

▶内容

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナル・デザイン（教育設計）（以下、IDという）の中から、学習者を動機づけするための手法（ARCS動機づけモデル）や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

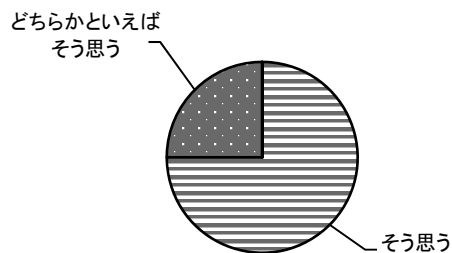


【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

8名（100%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった



▶コメント

- 【この研修の良かった点】
- ARCS動機づけ、実践にどう活かすか考えながら充実した学びをさせていただきました。
 - 部分的に、活用できそうな部分を多く学びました。また、他の専門の方とお話ができることがよかったです。
 - 問題点をARCSの理念(?)に基づいて分類することにより、整理できたり解決策が少し見えてきたのは良かったです。他分野の人の意見が聞けたのも、とても楽しく有意義でした。



第32回授業デザインワークショップ

【実施概要】

▶講師

小林忠資(岡山理科大学)
小林直人, 仲道雅輝, 竹中喜一(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和元年6月29日(土) ~ 30日(日)

▶場所

いまばり湯ノ浦ハイツ

▶参加者

15名[学内5名・学外10名_愛媛県立医療技術大学(2),
岡山理科大学(4), 松山東雲女子大学(1),
日本文理大学(2), 大分大学(1)]

▶目標

1. 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
2. さまざまな授業方法の特徴を理解し, 学習目標に適した授業方法を選択できる。
3. 教育評価の原理と種類を理解し, 学習目標に適した評価方法を選択できる。
4. アクティブラーニングを取り入れた90分の授業の計画を作成できる。
5. 作成した授業計画案にもとづいて模擬授業を実践できる。

▶内容

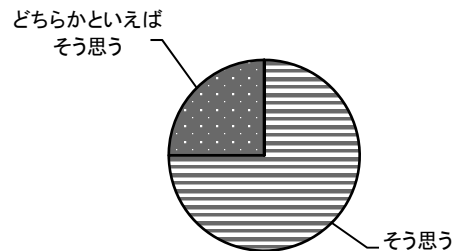
1. オリエンテーション
2. アイスブレイキング
3. ミニ講義Ⅰ「コース設計&クラス設計」
 - ・1科目(コース)の授業計画
 - ・90分授業の基本構成
 - ・90分(クラス)の授業計画
4. ミニ講義Ⅱ「シラバスの書き方&学習評価の基本」
 - ・目標設定
 - ・学習評価の目的
 - ・評価の方法と評価対象
5. ミニ講義Ⅲ「学習者の学びを促進する様々な授業方法」
 - ・講義形式のメリット・デメリット
 - ・双方向型授業のコツ
 - ・体験型授業, 参加型授業
6. グループワーク「共通教育科目の開発」
 - ・目標設定, 授業計画, シラバス作成
 - ・授業計画と評価対象
 - ・授業計画案作成
 - ・模擬授業の練習
7. 模擬授業
8. 閉会式

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

12名(80.0%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

○模擬授業を通して, 自分が細かい話に偏りがちな傾向があることに気付いた。学生からみて, その科目を学ぶと何の得があるのか, 興味を沸かせるように注意深く授業設計する必要があると感じた。

○2日間があつという間で自分自身でも驚くほど集中して講義やグループワークに参加できました。環境の異なる他大学の先生方と一緒にグループワークをする中で, 他者の意見を受け止めながら自分の意見を通す難しさを改めて実感しました。またグループワークであったとしても, グループの評価と個人の評価をどのようにするのが良いかについても, 今回の研修では非常に勉強になりました。



ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

【実施概要】

▶講師

奥本良博(阿南工業高等専門学校)
長崎睦子(愛媛大学英語教育センター)
小林直人, 仲道雅輝, 竹中喜一(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和元年7月6日(土) ~ 7日(日)

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2 他

▶参加者

8名[学内6名・学外2名_香川大学(1), 人間環境大学(1)]

▶目標

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何かを説明できる。
2. TPの必要性・有効性について説明できる。
3. TP作成の要点と手順を列挙できる。
4. TPを作成できる。

▶内容

〈1日目〉

オリエンテーション
昼食会・意見交換
メンタリング
TP作成作業

〈2日目〉

TP作成作業
メンタリング
昼食会・意見交換
TP作成作業
TP披露・修了式

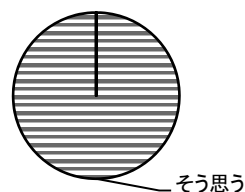


【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

7名(87.5%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- 教育の理念と方法が一致しているかどうかを考えることができたこと。それによって、自分自身の現状を把握でき、今後の教育目標を考える際の見通しを持てたこと。
- 集中して取り組む時間が確保できたのはワークショップに参加したからこそで、期日までに各自作成してくださいという感じだと、なかなか手につかないこともあるが、ワークショップで2日間それについて取り組むことで、より真剣に考えることができたように感じている。
- 教育が評価してもらえるということに初めて気がついた。授業を行うモチベーションが向上した。

【この研修の改善点】

- もう少し、他の参加者の発表を聞きたいと思ったので、報告時間を少し長くしてもよかったかなと思いました。
- 事前にこのワークショップの内容を簡単にご説明していただける機会が(e-learningなどで)設けられていればよかったなと思います。
- メンターや班員を何度かシャッフルするなどして、他の方々の意見も聞いてみたりしたかった。
- 事前課題の作成時には、スタートアップ・シートやティーチングポートフォリオの作成例・完成例があった方が作成が楽になったかと感じた。



講義のための話し方入門

【実施概要】

▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)
飯島永津子(愛媛大学医学部教育協力者)

▶日時

令和元年8月20日(火) 13:00 - 15:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

9名[学内3名・学外6名 愛媛県立医療技術大学(1),
高知リハビリテーション専門職大学(1), 松山大学(3),
人間環境大学(1)]

▶目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“良い”授業ができるようになる。
⇒“良い”授業とは？
 - ・わかりやすい授業
 - ・知的な緊張感のある授業
 - ・学生が積極的に参加し自ら考える授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを、講習中の実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

▶内容

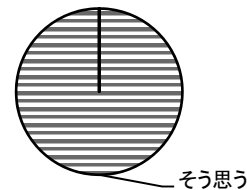
1. イントロダクション
 - ・本日のメニュー
 - ・本日の目的と目標
2. 講師が気をつけていること
 - ・学生にとってわかりやすい話し方とは？
 - ・どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
 - ・発音しにくい言葉
 - ・区別しにくい言葉
3. 実例を元に演習
 - ・聞き手が理解しやすい話し方
 - ・どう話すか？の前に何を話すか？
4. 休憩とストレッチ
5. 外部講師(教育協力者)による発声練習
 - ・大きな声を出すためには？
 - ・はっきりと発音するためには？
6. まとめ・セルフアセスメント
 - ・あらためて、「良い」授業とは？
7. 質疑応答

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(88.9%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 講義と実際の演習ができたことで、これから継続すれば、よりよくなっていけるのではないかと思いました。
- 現場で働いている人に話を聞いてよかったです。明日からの業務に役立てていきたいです。
- 講師の方の話しやすさ、伝え方がよく、わかりやすかったです。自分も学生さんにわかりやすい伝え方、興味が持てる伝え方をしたいです。授業の長さもちょうど良かった。
- 話し方を意識することはあまりないので、講座をきっかけにして気づけたことがよかったです。気をつけるべきところを具体例を通して、確認していただけてので分かりやすかったです。
- 自分の発する声の特徴を講師の先生から客観的に見聞きしていただき、助言をいただいた点が良かったです。自分の授業に責任を持つことと、話し方が密接に関わっていることがよく分かりました。
- 話す・声など今一度振り返り、考える機会になりました。



学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

▶日時

愛媛大会場:令和元年12月5日(木) 10:00 - 12:00
e-learning : 令和元年12月6日(金)~令和2年1月31日(金)

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

愛媛大会場:6名[学内5名・学外1名_松山大学(1)]
e-learning : 19名 [学外19名_香川大学(1), 愛媛県立医療技術
大学(12), 聖カタリナ大学(2), 松山大学(1),
徳島文理大学(1), 高知学園短期大学(1),
香川高等専門学校(1)]

▶目標

1. シラバスの役割を説明できる。
2. 授業の「目的」と「目標」との違いを説明できる。
3. 適切な「目的」と「目標」を書くことができる。
4. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

▶内容

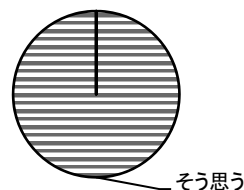
1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か?
 - ・定義
3. 授業題目
 - ・キーワードの書き方
 - ・わかりやすく書く
4. 目的の書き方
 - ・授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
 - ・到達目標の書き方
6. 授業内容
 - ・スケジュールの書き方
 - ・無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
 - ・外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組ませるコツ
 - ・eラーニングを活用した学習課題に取り組ませるコツ
8. 受講条件の書き方
 - ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止
9. 受講ルールの書き方
 - ・受講のマナー
10. 教材に関わる情報の書き方
11. 評価情報の書き方

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

愛媛大会場:4名(66.7%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

○シラバスは読んでもらえないと決めつけていたが、それは書き方に依ると思われた。研修で提示されたシラバスの例は学生が読もうと思えるものだった。

○演習でシラバスを改善するトレーニングができた。その場ですぐに模範的な解答が示され、どのように考えればよいかを確認することができた。

○シラバス作成の具体的手順やシラバスの意義を再認識することができた。

〔この研修の改善点〕

○研修後の質問から、皆さん聞きたいことが多いと感じたが、研修中に消化できる時間があればいいと思った。



IRer養成講座 in 愛媛

【実施概要】

▶講師

畠田敏行(茨城大学)
中山 晃(愛媛大学英語教育センター)
小林直人, 中井俊樹, 竹中喜一(愛媛大学教育企画室)

▶日時

令和元年12月12日(木) ~ 13日(金)

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
法文学部本館 法文学部大会議室

▶参加者

39名[学内1名・学外38名 星槎道都大学(1), 北星学園大学(1), 帝京大学(1), 獨協医科大学(2), 駿河台大学(1), 芝浦工業大学(2), 昭和大学(1), 帝京科学大学(1), 武蔵野大学(1), 川村学園女子大学(1), フェリス女学院大学(1), 昭和音楽大学(1), 山梨学院大学(1), 聖隷クリストファー大学(1), 清泉女学院大学(1), 岐阜協立大学(1), 愛知工科大学(1), 名城大学(1), 鈴鹿医療科学大学(1), 金城大学(1), びわこ学院大学(2), 大阪医科大学(1), 追手門学院大学(1), 龍谷大学(1), 甲南女子大学(1), 鳥取短期大学(1), 川崎医科大学(1), 川崎医療短期大学(1), 徳山大学(1), 徳島大学(1), 四国学院大学(1), 福岡工業大学(1), 福岡歯科大学(2), 九州ルーテル学院大学(1)]

▶目標

1. IRの意義と方法について説明できる。
2. データの適切な管理を組織的に行う方法を説明できる。
3. 学生にかかわるデータの分析を行うことができる。
4. データ分析を基に教育や学生支援の改善提案ができる。
5. 多様な考えや経験を尊重し, 共に学び合う雰囲気をつくる
ことができる。

▶内容

〈1日目〉

IRの意義と方法を理解する
IRerに必要な能力を理解する
実務担当者の分析事例
データの適切な管理方法を理解する
質的データを分析する
量的データを分析する

〈2日目〉

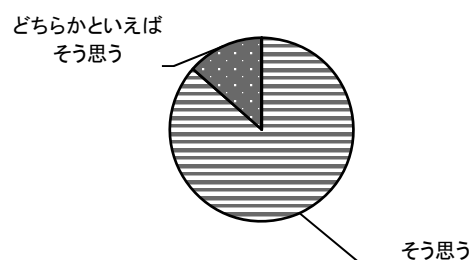
管理者が求める報告のポイントとは
IRに関する質疑応答
教育・学生支援の改善提案を考える(グループワーク)

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

37名(94.9%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

- 〔この研修の良かった点〕
- データの多様な切り口を, ワークショップで学ぶことができた。
 - 他大学IR担当者との交流ができてよかった。
 - 講師の方々の多角的な視点をうかがえたこと。
 - 技術的な話だけでなく, IR担当者としての考え方, 業務への取り組み方, 何をどのような目的で誰にどのタイミングで見せるのか等, 知ることができた。

〔この研修の改善点〕

- 実際にどのような事例で悩んでいるのか事前調査して, グループワークに取り入れてはどうか?
- 分析ツールの使い方が不十分であったため, グループワークで思うようにデータ作成や表の作成ができなかった
ので, データ分析の実習を取り入れてほしかった。
- プレゼンは少し事前準備したほうが, 有意義な発表ができたと思う。



【FD】

ファカルティ・ディベロッパー養成講座 in 東京

【実施概要】

▶講師

榊原暢久(芝浦工業大学)
小林直人, 仲道雅輝(愛媛大学)

▶日時

令和2年2月7日(金) ~ 9日(日)

▶場所

芝浦工業大学 芝浦キャンパス

▶参加者

19名[学外19名 札幌大学(2), 獨協医科大学(1), 高崎健康福祉大学(1), 国土館大学(3), 国立高専機構本部(1), 帝京大学(1), 東京理科大学(1), 健康科学大学(1), 愛知みずほ短期大学(1), 大垣女子短期大学(1), 中京学院大学(1), 大阪経済大学(1), 神戸学院大学(1), 川崎医療短期大学(1), 福岡工業大学(1), 沖縄キリスト教学院大学(1)]

▶目標

1. 所属する機関においてなぜFDが必要なのかを説得力をもって説明できる
2. 所属する機関のFD活動を振り返り, 特徴と課題を抽出することができる
3. FDのさまざまな場面で求められる課題解決の方法を提案することができる
4. FDに関する多様な考え方や実践事例を尊重し, 共に学びあう雰囲気貢献できる
5. 他機関のファカルティ・ディベロッパーと友好的なネットワークを構築する

▶内容

〈1日目〉

所属大学のFD活動の振り返り
FDを理解する
FDを設計する
研修を運営する

〈2日目〉

授業コンサルティングを運営する
学生参画型FDを運営する
ティーチングポートフォリオを取り入れる
組織開発につながるFDを実施する
ファカルティ・ディベロッパーとして成長する
演習: FDの企画案を作成する

〈3日目〉

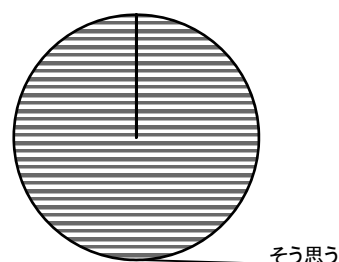
演習: FDの企画案を作成する
FDの企画案の発表と共有

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

17名(89.5%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- FDについて狭い捉え方をしていたが, 授業改善にとどまらず教育の質保証全般にわたることを改めて認識し直すことができた。また, 研修の運営についても多くの知見を得ることができた。
- 自分の大学に必要なFD活動が何なのかを知ることができた。FDを活かしてカリキュラムを改善する具体的な方法が見つかった。
- 講義とワークのバランスが良かった。メンター制度があったことが良かった。
- FDについて体系的に学べ, かつ, 次年度に向けた企画案のたたき台を作成することができた。

〔この研修の改善点〕

- IRとの関連についても, 取り上げていただきたい。
- 計画立案→発表を, もう1サイクルできるとさらに良かった(時間的に厳しいと思いますが)。



SDコーディネーター養成講座 in 東京 1/2

【実施概要】

▶講師

関屋一博(岩手県立大学)
日野智仁(奈良先端科学技術大学院大学)
鈴木 洋(芝浦工業大学)
竹中喜一, 吉田一恵, 高木佳代子(愛媛大学)

▶日時

令和2年2月7日(金) ~ 9日(日)

▶場所

芝浦工業大学 芝浦キャンパス

▶参加者

22名[学外22名_青森中央学院大学(1), 東北学院大学(2), 埼玉大学(1), 日本女子体育大学(1), 成蹊大学(1), 創価大学(1), 多摩美術大学(1), 東京音楽大学(1), 東京電機大学(1), 法政大学(1), 千葉大学(1), 信州大学(1), 愛知みずほ大学(1), 岐阜医療科学大学(1), 大阪産業大学(1), 大阪大学(1), 島根大学(1), 川崎医療短期大学(1), 倉敷芸術科学大学(1), 筑紫女学院大学(1), 琉球大学(1)]

▶目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる。
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる。
3. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる。
4. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる。
5. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる。
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる。

▶内容

〈1日目〉

SD, SDCについて理解する
人材育成ビジョンの必要性について理解する
組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ

〈2日目〉

SP, メンタリングの導入事例及びその有効性について
メンタリングを実践する
個人のビジョン作成ワークショップ
SDプログラムを企画・運営する
SDプログラムを評価する
SDプログラム作成ワークショップ

〈3日目〉

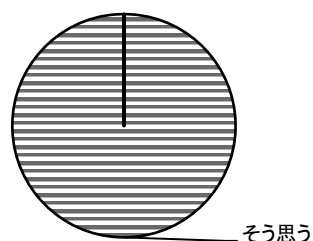
SDプログラム発表と共有

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

22名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

- 【この研修の良かった点】
- 90/20/8に基づいて学びのリズムが配慮されており、学びの効率化の実践を体験できたのが良かった。ワークの手順も整理されており、納得しながら実践することができ、良かった。
 - ワークショップの内容が具体的で、実践にも活用できるように感じた。
 - SDプログラムを実際に作成できた上、自分の実力以上の自信作が完成した。
 - 全国から集まった大学職員の方々とワークを通して交流することができ、自身の見識を広げることができた。

【この研修の改善点】

- 初日に、最終日の制作物(アウトプット)についてももう少し詳しい説明(Goalの形)があると良かった。
- 一部のプログラムはオンラインで提供して、ブレンDED型の研修にすると、さらに学習効果が高まると思う。

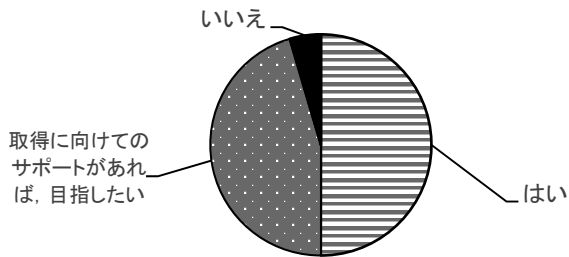


SDコーディネーター養成講座 in 東京 2/2

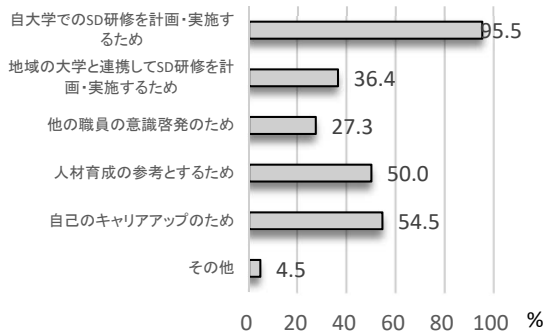
【アンケート結果】

▶ SDC資格取得について

◆ 今後SDC資格取得を目指したいか



◆ SDCの認定を目指す理由（複数選択可）

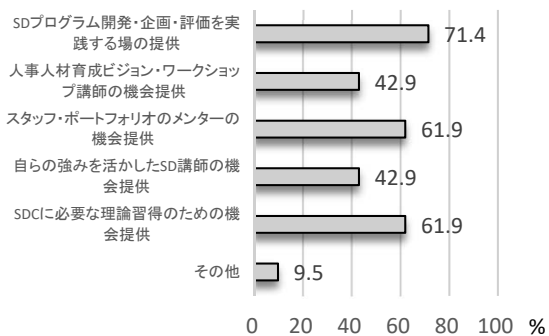


※その他の回答

- ・高等教育の発展のため

◆ SDC資格取得に向けて必要と感じるサポート

(複数選択可)



※その他の回答

- ・自大学の理解と体制づくり
- ・FDとの連動(現在のSDの対象は、教員も含まれるため)

▶コメント

〔SDC資格取得について〕

- 係員クラスは、なかなか他大学で講師を任せてもらえる機会がないので、今後、指導的立場を目指して精進したい。
- OSDCの延長上として、FDの推進も職員がフレームを提供する仕組みを構築する必要があると考えている。自ら先行モデルを導かないと、組織(部署内研修)に提言することは難しく、実践者としてSDCを学内に定着させたい。



③ 講師派遣 / オープン・オフィス

多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、令和2年2月末までに42機関からの依頼を受け、47件の講師派遣を行った。研修講師や研修内製化のためのアドバイスをを行う等、それぞれの組織で必要とされる人材育成の取組に、本拠点のノウハウを提供した。講師派遣先には、事後に報告書やアンケート結果の提出を依頼し、その成果の確認や今後の改善に供している。

＜令和元年度講師派遣件数＞

令和2年2月末現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
派遣数	0	3	7	7	7	8	13	2	47

＜講師派遣先での研修プログラム例＞

- ◆カリキュラムコーディネーター養成研修会
- ◆アクティブ・ラーニング
- ◆成績評価とアセスメント・ポリシー
- ◆教職員のための危機管理
- ◆ハラスメント対応について
- ◆プロジェクト・マネジメント
- ◆大学職員のキャリア形成におけるSD 等

＜研修講師派遣先からの声＞

- ・カリキュラムマネジメントにおける教務系職員の役割について今後の方向性が確認できる機会となった。
- ・網羅したいという思いが逆効果、活動自体が目的になってしまう、という教師が気づきにくい過ちは非常に身に染みる言葉であった。
- ・事前に今回のテーマに対して教員から寄せられた意見についても具体的かつ丁寧に解説していただき、大変貴重なお話を伺えた。
- ・アクティブ・ラーニングの実際を体感しつつ、短時間で網羅的かつ効果的に学習することができた。
- ・本学の教育の質保証、教育改革に向けた様々な取り組みの参考となる、非常に有意義な研修会であった。

※講師派遣先から提出された報告書の一部をP. 39～48に掲載。

また、全国の高等教育機関からの訪問調査に対応するため、年5回オープン・オフィスを設定している。

訪問対応日	内 容
令和元年 6月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育企画室の業務と体制 ・愛媛大学における教職員の能力開発 ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク関係(SPOD) ・教職員能力開発拠点関係 ・西日本学生リーダーズ・スクール(UNGL) ・愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)
10月10日(木)	
11月14日(木)	
12月12日(木)	
令和2年 1月 9日(木)	

さらに、オープン・オフィス以外の個別訪問も受け付けており、今年度は5機関(4件)の依頼に対応した(令和2年2月末現在)。個別訪問の依頼を受けた際は、事前に質問事項を確認し、ニーズに適した教職員が対応にあたっている。

<令和元年度来訪機関数>

令和2年2月末現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	海外	合計
来訪数	0	0	1	0	2	1	0	1	0	5

<個別訪問で対応した内容例>

- ◆職員育成の取組について
- ◆カリキュラム開発支援について
- ◆初年次教育について
- ◆スタッフ・ポートフォリオの有用性について
- ◆SD研修全般について
- ◆職員の能力開発に関する研究と実践との連携方法について 等

教育ネットワーク中国からの報告書

研修名：スタッフ・ポートフォリオ（SP）作成 研修会

日 時：令和元年9月14日 13時00分～17時00分

会 場：広島国際大学 広島キャンパス400号室

講 師：吉田 一恵（愛媛大学SD統括コーディネーター，能力開発室長）

参加者：24名（職員23名，その他1名）

<概要>

愛媛大学・吉田一恵氏を講師として「スタッフ・ポートフォリオ（SP）作成 研修会」をテーマとして研修を行った。

あらかじめ指定されたグループに別れた後，講師からまずSPの有効性と必要性について説明があり，エビデンスに基づいた職員の業績集であることが示された。その後，SPにおけるメンターとメンタリングの重要性を実感するためのグループ分けを経て，最終的に個人のビジョンについてまとめて4時間弱の研修が終了した。

研修終了後は講師に多くの質問があり，今後組織としての対応について検討されている様子であった。研修アンケートからは，「人材育成における目標設定の重要性を理解できた」「ぼんやりとしていた自分のビジョンを具体化でき，自己理解が深まった」「メンターの役割や考え方を理解することができた」といったコメントが見られた。



大学教務実践研究会からの報告書

研修名：カリキュラムマネジメントにおける教務系職員の役割（大学教務実践研究会第7回
基調講演）

日 時：令和元年12月7日 10時40分～12時30分

会 場：中京大学名古屋キャンパス1号館3階清明ホール

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長，教授）

参加者数：254名（役員：2名，教員：1名，事務職員：251名）

<概要>

愛媛大学の中井俊樹教授をお招きして「カリキュラムマネジメントにおける教務系職員の役割」をテーマに大学教務実践研究会第7回の基調講演をいただいた。

「大学におけるカリキュラムの特徴」「大学のカリキュラムの編成原理」「カリキュラムマネジメントの体制」「大学の教務系職員の役割」という4つの項目に沿ってご講演いただいた。

カリキュラムマネジメントの方法とその活動を推進する組織体制のあり方についての論点を整理いただき、教務系職員のカリキュラムマネジメントにおける役割として、「関連法規，参照基準，制約条件の知識の提供」「カリキュラムの編成原理を踏まえた改善策の選択肢の提供」「カリキュラムマネジメントの体制の整備」「カリキュラムの評価に関する各種情報の収集と提供」「国の動向，市場の動向の把握と情報提供」「チェンジエージェントとしての組織の触媒役」等が述べられた。

講演後の質疑応答では活発な質疑応答がなされ、カリキュラムマネジメントにおける教務系職員の役割について今後の方向性が確認できる機会となった。



大学行政管理学会近畿地区研究会からの報告書

研修名：カリキュラムコーディネーターの役割の検討

日 時：令和2年1月11日 14時00分～17時00分

会 場：神戸学院大学ポートアイランド第1キャンパスA号館6階会議室

講 師：竹中 喜一（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室講師）

参加者：23名（教員1名，職員21名，その他1名）

<概要>

愛媛大学の竹中喜一氏を講師に、「カリキュラムコーディネーターの役割の検討」をテーマに研究会を開催した。

まず、受講者は4名で構成される班に分かれ、講演の合間にワークを行う方式で研究会は進められた。内容については、カリキュラムコーディネーターの役割の検討の前提として、カリキュラムマネジメントの定義と求められる背景、カリキュラムの編成・実施・評価・改善、そしてカリキュラムマネジメントの組織体制についてのレクチャーを受けた後、カリキュラムコーディネーターの役割の検討について研修を受けた。他大学の事例についても説明があり、各班とも活発に意見交換を行った。

研修後のアンケートでは、「カリキュラムコーディネーターの役割が考えていた以上に広いということが分かった、現在の教学マネジメント、カリキュラム評価などの状況や課題を網羅的に理解できた」といったコメントが見られた。



愛知医科大学からの報告書

研修名：効果的な学修のための教材の作成と活用

日 時：令和元年5月10日 17時30分～19時00分

会 場：愛知医科大学 303講義室（大学本館3階）

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長，教授）

参加者：89名（役員1名，医学部教員87名，看護師1名）

<概要>

愛媛大学の中井俊樹氏を講師に、「効果的な学修のための教材の作成と活用」をテーマに研修を行った。

1時間の講演では，教育方法の基礎，スライドを活用する，さまざまな教材を活用する，まとめとふりかえり，の流れでお話をいただいた。網羅したいという思いが逆効果，活動自体が目的になってしまう，という教師が気づきにくい過ちは非常に身に染みる言葉であった。1回の授業の流れについては，導入・展開・まとめで構成し，アクティブラーニングを織り込むために“発問”することの重要性が強調された。スライドの活用については，視覚的に理解できるようにする，学生が受け身にならないようにする，多様な学生を前提にしてわかりやすいスライドにする，さまざまな教材を活用する，ということは丁寧に具体例を示しながら説明いただき，非常にわかりやすく実践への適用が可能な内容であった。

研修終了後には，受講者から多くの質問が出され，講義の仕方，スライドの作成に仕方について活発な議論が行われた。



関西国際大学からの報告書

研修名：学習者の思考を刺激する発問

日時：令和元年8月21日 14時40分～16時40分

会場：関西国際大学尼崎キャンパス 3階301KUISホール

講師：中井俊樹教授（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長，教授）

参加者：170名（教員118名，職員46名，学生5名，その他1名）

<概要>

愛媛大学・中井俊樹氏を講師に招き，学生の思考を深める「考えさせる問い（発問）」と，経験学習を含めた授業での活用についての意義を理解する趣旨で，「学習者の思考を刺激する発問」をテーマに研修を行った。参加者は，6・6法等によるワークを挟み，発問の機能，種類，方法，工夫，さらに研修のテーマである思考を深めていく「本質的な問い」等についての講義と，様々な場面での発問例により理解を深めることができた。さらに内容は，体験を学習に変えるリフレクティブ・サイクルや問題解決，目標を行動につなげる発問，組織的な取り組みの視点としてのカリキュラム設計に及び，研修後の質疑応答では活発な意見交換がなされた。



北里大学からの報告書

研修名：医療系学部における大人数講義室でのアクティブラーニング（北里大学医療衛生学部主催第23回教員教育研修会）

日時：令和元年8月26日 13時00分～15時00分

会場：北里大学相模原キャンパスA3号館（医療衛生学部棟）3階33講義室

講師：小林 直人（愛媛大学学長特別補佐，教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，教授）

参加者：100名（教員93名，職員7名）

<概要>

愛媛大学の小林直人氏をお招きし、『医療系学部における大人数講義室でのアクティブラーニング』のテーマでご講演いただいた。

まず、アクティブラーニングとは何か、何故必要なのかとの問いから始まり、医療系学部におけるアクティブラーニングの現状などを解説していただいた。その後は、2～3人のグループワークを行い、実際にアクティブラーニングを体験して理解を深めた。事前に今回のテーマに対して教員から寄せられた意見についても具体的かつ丁寧に解説していただき、大変貴重なお話を伺えた。講演後の質疑応答の際は、活発な意見交換がなされた。研修会終了後のアンケートでは、「アクティブラーニングの必要性は感じているものの敷居が高く、実際の導入に躊躇していたが、今回の研修を機に今後の授業に取り入れてみたい」との意見が多く見られた。



広島経済大学からの報告書

研修名：成績評価とアセスメント・ポリシー（広島経済大学第5回FD研修会）

日時：令和元年9月19日 13時00分～15時00分

場所：明德館7階 プレゼンテーションコート

講師：小林 直人（愛媛大学学長特別補佐，教育・学生支援機構副機構長，教育企画室長，教授）

参加者：教員32名（運営補助として職員2名）

<概要>

令和元年度より新たに設定されたアセスメント・ポリシー（学生の学習成果の評価について目的や達成すべき質的水準，具体的実施方法を定めた学内の方針）をテーマに，愛媛大学小林直人氏を招聘してFD研修会を実施した。教育改革に向けて，「4つのポリシー」の意義やカリキュラムの評価手法，個々の授業科目の成績評価の重要性について学んだ。

研修会では，「4つのポリシー」と，カリキュラム・授業科目の評価方法を中心に，具体的な事例やデータを提示しながら進められた。まず，カリキュラム・授業科目における評価の重要性について説明があり，成績評価の客観性を担保するための手法としてルーブリック評価の紹介があった。続いてアセスメント・ポリシーの意義や重要性と評価手法について，3つのポリシーとの関連，さらに具体的な事例を用いながら説明があった。

参加教員は，個々の授業や学部・学科，カリキュラムにおけるアセスメントの手法や必要性，データ分析方法について理解を深めることができた様子であった。

本学の教育の質保証，教育改革に向けた様々な取り組みの参考となる，非常に有意義な研修会であった。



岩手医科大学からの報告書

研修名：アクティブラーニングを用いた授業設計

日 時：令和元年11月2日 9時00分～12時00分

会 場：岩手医科大学矢巾キャンパス マルチメディア教育研究棟4階 4-A講義室

講 師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長，教授）

参加者：31名（看護学部教員26名，医学部教員3名，薬学部教員1名，教養教育センター教員1名）

<概要>

今回、愛媛大学の中井俊樹氏を講師に招き、『アクティブラーニングを用いた授業設計』と題したFD研修を実施した。「アクティブラーニングとは何か？」から始まり、「学習課題の組み立て方」「思考を刺激するための発問法」「経験からの学ばせ方」「学生相互の学ばせ方」「組織的にアクティブラーニングを推進する意義」に至るまで、バズ法を用いたグループワークを随所に交え、アクティブラーニングの実際を体感しつつ、短時間で網羅的かつ効果的に学習することができた。研修終了後には、受講者から多くの質問が出され、授業内でアクティブラーニングを行う際の課題等について活発な意見交換がなされた。



十文字学園女子大学からの報告書

研修名：教学マネジメントの推進に向けて～カリキュラムと個々の授業の関連を考える～

(十文字学園女子大学主催大学問題研究会・FD研修会)

日時：令和元年11月21日 16時30分～17時30分

会場：十文字学園女子大学4号棟3階431教室

講師：竹中 喜一（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室講師）

参加者：119名（教員87名，職員32名）

<概要>

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室竹中喜一氏を講師に、「教学マネジメントの推進に向けて～カリキュラムと個々の授業の関連を考える～」をテーマにご講演いただきました。

パワーポイントによる資料の提示を行っていただきながら、教学マネジメントの基本、「本質的な問い」の追究、カリキュラムの意図を反映させる工夫、カリキュラムの編成、実施、評価、改善のポイントという構成でシラバスのあり方など含めて幅広い内容を大変わかりやすくご講演いただきました。

研修終了後には、受講生からの質問についてもお答えいただく時間を設けていただき、参加した受講者には大変有意義な研修となりました。受講生に対するアンケート（コメントペーパー）における評価も非常に高く、感想として「ぜひご都合等が合えば今後もご講演等をお願いしたい」という意見もありました。短い時間の中で充実したご講演いただき感謝しております。



尾道市立大学からの報告書

研修名：授業アンケートの効果的な活用方法

日時：令和元年11月22日 13時10分～14時10分

会場：尾道市立大学E棟3階303号室

講師：高橋 平徳（愛媛大学教育・学生支援機構教職総合センター講師，教育企画室室員）

参加者：13名（教員10名，職員3名）

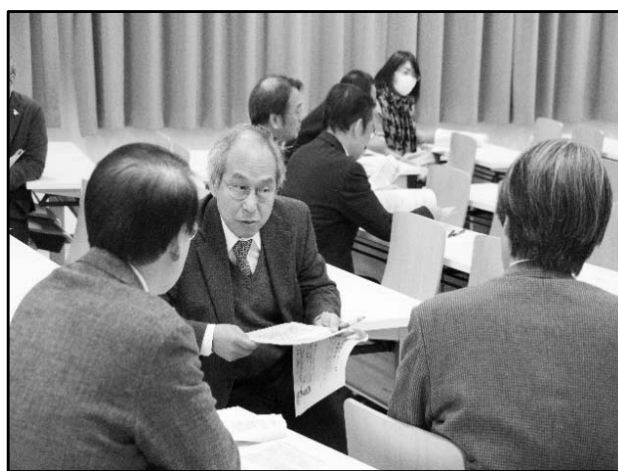
<概要>

愛媛大学の高橋平徳氏を講師に迎え、「授業アンケートの効果的な活用方法」をテーマに研修を行った。

まず、講師の自己紹介から入り、授業評価を取り巻く現状の説明、愛媛大学における取組についての紹介が行われた。

次に、何のために授業アンケートを実施するのか、アンケートで何を聞くか、実施時期はいつがよいのか、どう実施し、どう分析し、どう活かしていくのか、また、授業評価アンケートにおける課題とその解決策についても説明がなされた。

途中、受講者はペアワークによって研修内容を確認するとともに、研修内容を活かして今後何ができるかを話し合いながら研修を行った。

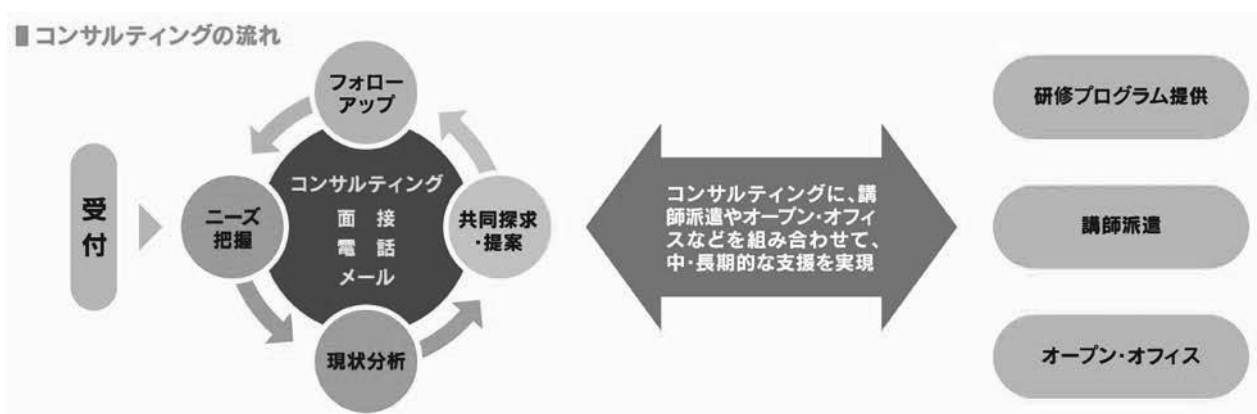


⑤ その他教職員能力開発に関する事業

a. コンサルティングについて

授業やカリキュラムの改善，I Rの組織等，能力開発や組織に関する個別相談を受け，コンサルティングを行っている。コンサルティングでは，教育コンサルタントによる現状診断を行い，ニーズを分析した上で，提案，介入，フォローアップというプロセスが取られる。この一連の流れの中に，研修会等の講師派遣や訪問対応を組み合わせ，その場限りの対応としない長期的支援の実現に努めている。

本拠点代表の小林は，昨年引き続き日本医学教育学会の卒前教育委員会の委員に任命され，医療人教育にアクティブラーニングを積極的に導入するため，同委員会主催で7月に開催されたワークショップに講師として参加した。また，本拠点の中井は，講師派遣や論文・記事の掲載等により，薬学教育・看護教育の分野にも貢献している。



b. 他拠点等との連携について

大学教育イノベーション日本（文部科学省から教育関係共同利用拠点として認定を受けた組織や大学間連携により大学教育の開発を進める組織などが加盟）の代表に，今年度から本拠点の中井が就任することとなった。加えて，同氏は日本高等教育開発協会（J A E D）の副代表も務めている。これらの全国規模のネットワーク組織との連携を活かして，今年度も F D e r 養成講座等の研修を実施しており，今後さらに連携を強化していくこととしている。

c. 国際化対応について

愛媛大学の国際交流協定校であるモザンビーク・ルリオ大学及びインドネシア・ハサヌディン大学の教職員から，本拠点が提供する F D / S D プログラムへの参加希望があり，オブザーバーとして受け入れを行った。研修資料の英語版を提供するなど，国際連携にも対応した。

d. 論文・記事の掲載等について

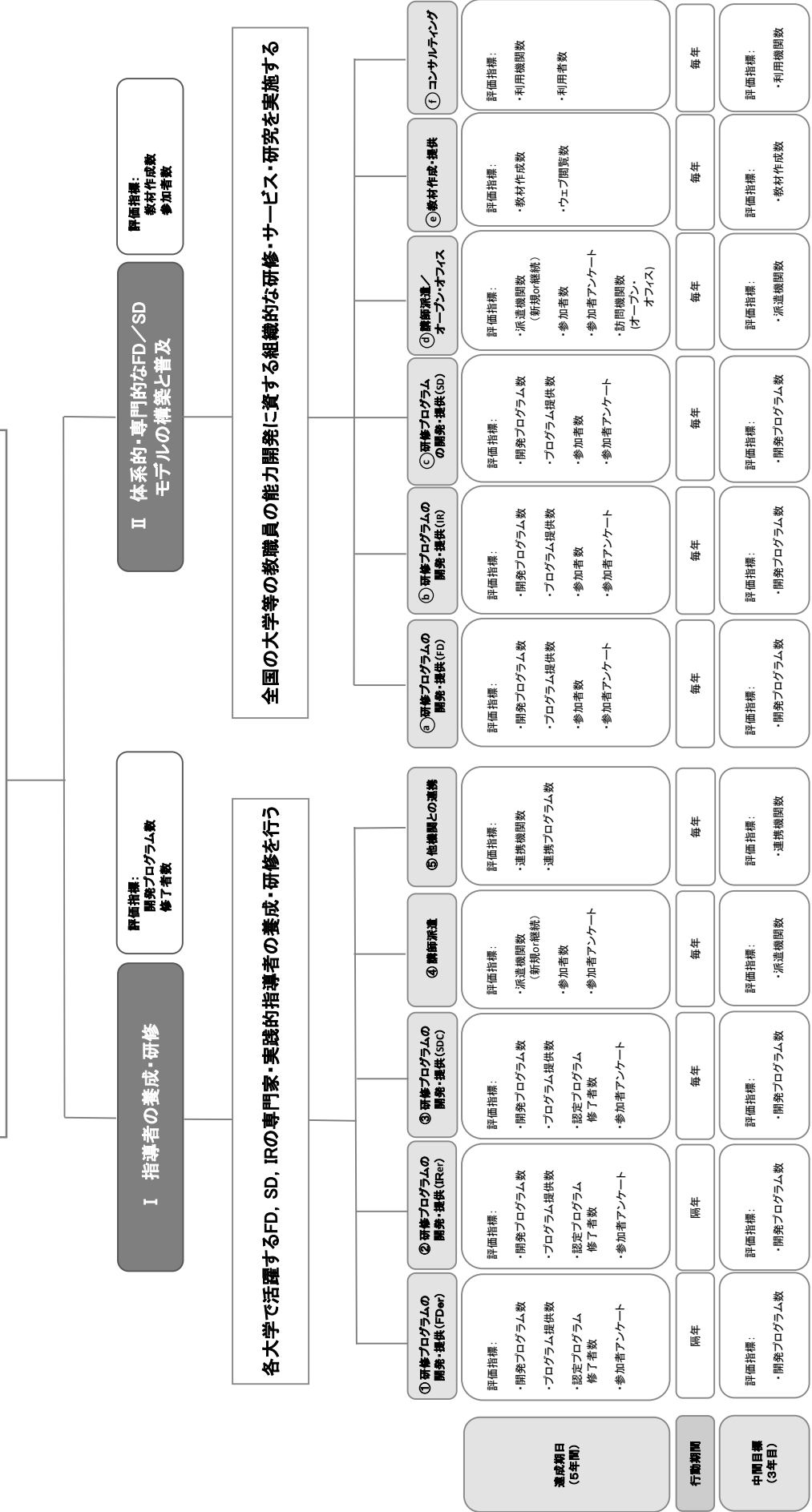
専門分野から大学全体の取組まで、教育企画室のスタッフが愛媛大学での事例や研究成果をまとめた論文や記事について、各種教育誌や新聞等に掲載された。また、著書についても共著を含めて3冊が新たに出版され、研究成果を積極的に発信している。

表題	掲載誌等名	出版社	出版年 /巻/号/頁	著者
高校生が取り組むeラーニングを活用した早期・情報教育プログラムの試み	リメディアル教育研究	日本リメディアル教育学会	2019年4月1日 第13巻	(共著) 仲道雅輝ら
医学科の進級判定と医師国家試験の合格率は相関するのか	愛媛医学	愛媛医学会	2019年12月1日 38巻4号 pp.164-168	(共著) 小林直人ら
ピアリフレクションによる学生のリーダーシップ行動の向上 ～e-ポートフォリオによる効果検証～	日本リーダーシップ学会論文集	日本リーダーシップ学会	2020年2月 第3号 pp.1-7	(共著) 丸山智子ら
能力開発による教員の支援と教育の質向上	月刊愛媛ジャーナル	愛媛ジャーナル	2019年5月20日 第32巻12号 pp.78-80	中井俊樹
4年間を通して若者の成長を支える愛媛大学のキャリア教育	月刊愛媛ジャーナル	愛媛ジャーナル	2019年5月20日 第32巻12号 pp.81-83	丸山智子
医療従事に関するキャリアデザインの実態調査 愛媛大学医学部生の調査結果について	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学生支援機構	2020年3月 第18号 pp.9-20	(共著) 小林直人ら
初年次教育科目「日本語リテラシー入門」の取組と成果 ～6年間の取組を振り返って～	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学生支援機構	2020年3月 第18号 pp.43-52	(共著) 仲道雅輝ら
大学広報に関する高校教員の意識	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学生支援機構	2020年3月 第18号 pp.75-84	(共著) 仲道雅輝ら
教職課程の学習成果を可視化するための自己評価尺度の開発-第2報-	大学教育実践ジャーナル	愛媛大学教育・学生支援機構	2020年3月 第18号 pp.37-41	(共著) 高橋平徳ら
大学教員の教育活動における倫理とは	教育学術新聞	日本私立大学協会	2019年5月22日 第2768号	中井俊樹
大学IR、急増中 データに基づき、学生募集・中退予防	朝日新聞	朝日新聞社	2020年3月1日 朝刊 17面	(インタビュー) 中井俊樹

第2期教職員能力開発拠点の目標体系図

【上位目的】

学生の学びの促進を担う教職員の能力開発を行うことによる
全国の高等教育機関における教育の質向上への寄与



各大学で活躍するFD, SD, IRの専門家・実践的指導者の養成・研修を行う

全国の大学等の教職員の能力開発に資する組織的な研修・サービス・研究を実施する

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規

平成18年5月10日
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構規則第10条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構（以下「機構」という。）に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（以下「教育企画室」という。）を置く。

(目的)

第2条 教育企画室は、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）の指示のもと、愛媛大学（以下「本学」という。）の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の教育改革を推進することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、教育企画室に次の各号に掲げる教育研究部門（以下「部門」という。）を置く。

- (1) 教育・学習支援部門
- (2) 教育調査・分析部門
- (3) 学生能力開発部門

(業務)

第4条 教育企画室は、機構長の指示に基づき、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
- (2) 教育の質保証のための教職員の能力開発に関すること。
- (3) 授業評価及びシラバスに関すること。
- (4) 学生の学習支援及び能力開発に関すること。
- (5) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
- (6) 教職員能力開発拠点事業に関すること。
- (7) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

(組織)

第5条 教育企画室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) 室員

ア 教育企画室に配属された機構の専任教員
イ 機構の専任教員（アを除く。） 若干人
ウ 本学（機構を除く。）の専任教員 若干人

2 室長は、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

3 副室長は、本学の専任教員のうちから、機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

4 室員のうちイの者は機構長が指名し、ウの者は機構長がその者が所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

5 副室長及び室員（アを除く。）の任期は1年とし、再任を妨げない。

(職務)

第6条 室長は、教育企画室の業務を掌理する。

2 副室長は、室長の職務を助ける。

3 室員は、教育企画室の業務を処理する。

(共同利用運営委員会)

第7条 教育企画室に、第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議するため、共同利用運営委員会を置く。

2 共同利用運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(研究員)

第8条 教育企画室に、研究員を置くことができる。

2 研究員は、教育企画室の業務に従事する。

3 研究員は、本学の職員のうちから、室長が推薦し、機構長が当該職員の所属する学部等の長の同意を得て、委嘱する。

(教育支援員)

第9条 教育企画室に、教育支援員を置くことができる。

2 教育支援員は、教育企画室の業務に参画する。

3 教育支援員は、他の大学、地方公共団体、民間企業等（以下「他の大学等」という。）の者の中から、室長が推薦し、機構長がその者が所属する他の大学等の長の承認を得て、委嘱する。

(共同利用)

第10条 教育企画室は、教職員の能力開発のため、本学の教育、研究に支障のない範囲で、本学のプログラム、設備、資料等を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

(事務)

第11条 教育企画室に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第12条 この内規に定めるもののほか、教育企画室に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年5月10日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成20年4月23日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年3月23日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年9月19日から施行する。

愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室）における
スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定に関する要項

平成23年3月9日
制 定

（趣旨）

第1条 この要項は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規第8条に基づき、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点として認定を受けた愛媛大学教職員能力開発拠点（教育・学生支援機構教育企画室、以下「拠点」という）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

（資格の名称）

第2条 資格の名称は、「スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（Staff Development Coordinator）」（以下「SDC」という。）とする。

（資格の認定）

第3条 SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、自らの業績等を記録したポートフォリオ（スタッフ・ポートフォリオ、ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオと呼称されるものをいう。）を別紙様式1のSDC認定申請書とともに提出した者に対して、拠点が別紙様式2の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、第4条に規定する資格認定委員会による書類審査及び面接審査に合格し、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が認定した者に授与する。

（資格認定委員会）

第4条 別紙様式1のSDC認定申請書が提出されたときは、資格認定の審査を行うため、資格認定委員会を設けるものとする。

2 資格認定委員会は、拠点の代表者が指名する者をもって構成する。

3 資格認定委員会に委員長を置き、前項に規定する委員の中から拠点の代表者が指名する。

（資格認定・授与原簿）

第5条 SDCを認定し授与したとき、及び第7条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式3の愛媛大学教職員能力開発拠点スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

（資格認定証書の再交付）

第6条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を行うことができるものとする。

（資格の取消し）

第7条 SDCを授与された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

（事務）

第8条 SDCの認定に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

（雑則）

第9条 この要項に定めるもののほか、SDCの認定に関し必要な事項は、拠点の代表者が別に定める。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成24年8月17日から施行する。

附 則

この要項は、平成25年5月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年7月3日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年6月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年6月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年7月6日から施行する。

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. 高等教育機関のスタッフ・ディベロップメントの推進に対する意欲と展望を有していること。
2. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得していること。
3. 高等教育機関における職員人材育成ビジョン^{※1}を構築・支援するための手法を修得していること。
4. スタッフ・ポートフォリオ^{※2}を作成する職員に対するメンター経験を有していること。
5. 資格の認定を受けようとする者が所属する機関以外において主催される研修会の講師の経験を原則、7回以上有していること。

※1 職員人材育成ビジョンとは、各機関において職員を育成していくための理念等を明文化したものであり、各機関固有のものをいう。

※2 スタッフ・ポートフォリオとは、SPODが開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け（エビデンス）に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規

平成22年3月23日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規(以下「教育企画室内規」という。)

第7条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、教育企画室内規第10条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長 1人
- (3) 教育学生支援部長
- (4) 学外の学識経験者 若干人

2 前項第2号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長(以下「機構長」という。)が指名する。

3 第1項第4号の委員は、機構長が推薦し、学長が委嘱する。

4 第1項第2号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

5 第1項第1号から第3号までの委員の合計数は、運営委員会の委員の総数の2分の1以下とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、教育企画室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員(代理者を含む。以下同じ。)の過半数が出席しなければ議事を開くことはできない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この内規は、平成22年3月23日から施行する。

2 この内規施行後、最初に任命される第3条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規

平成22年 4月21日
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規第12条の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議（以下「共同利用推進会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 共同利用推進会議は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議する。

(組織)

第3条 共同利用推進会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長
- (3) 教育・学生支援機構の専任教員 1人
- (4) 教育学生支援部長
- (5) 教育企画課長
- (6) 人事課長

2 前項第3号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長が指名する。

(議長)

第4条 共同利用推進会議に議長を置き、教育企画室長をもって充てる。

2 議長は、共同利用推進会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する教育企画室副室長がその職務を代行する。

(議事)

第5条 共同利用推進会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 共同利用推進会議に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、共同利用推進会議の運営に関し必要な事項は、共同利用推進会議が別に定める。

附 則

この内規は、平成22年4月21日から施行する。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年5月15日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

共同利用運営委員会委員名簿

氏名	所属・職名	備考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
近藤 理	愛媛大学教育学生支援部長	第3号委員
沖 裕貴	立命館大学教育開発推進機構 教授	第4号委員
青野 透	徳島文理大学総合政策学部 教授	第4号委員
大森 不二雄	東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授	第4号委員
榊原 暢久	芝浦工業大学教育イノベーション推進センター 教授	第4号委員

共同利用推進会議委員名簿

氏名	所属・職名	備考
小林 直人	愛媛大学教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長、教授	第1号委員
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授	第2号委員
仲道 雅輝	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師	第3号委員
近藤 理	愛媛大学教育学生支援部長	第4号委員
織田 隆司	愛媛大学教育学生支援部教育企画課長	第5号委員
米田 健	愛媛大学総務部人事課長	第6号委員



令和2年3月 発行

発行 教職員能力開発拠点
(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL.089-927-8922 (FAX兼用)
E-mail opar@stu.ehime-u.ac.jp
<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

印刷 セキ株式会社